

創立30周年
記念誌



1993

鹿児島西ロータリークラブ

創立30周年記念誌

1984~1993

鹿児島西ロータリークラブ

30周年を迎えて

鹿児島西ロータリークラブが昭和38年3月23日にスタートとして早くも30周年を迎えました。この間、奉仕の理想に向かって幾多の先輩の御苦心、御努力によって現在97名という大きなクラブに発展して参りました。そして対外的にも対内的にも非常に充実したクラブとして素晴らしい実績をあげております。これもひとえに会員皆様の深い友情と信頼のおかげだと感謝申し上げますと同時に、これからもロータリアンとして会員お互い努力することを誓いましょう。

鹿児島西ロータリークラブ
30周年記念実行委員長

30代会長 岩元紀彦

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。

- 第1. 奉仕の機会として知り合いを広めること。
- 第2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。
- 第3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。
- 第4. 奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

ロータリークラブの歌

我等の生業

作詞 高野辰之

作曲 岡野貞一

我等の^{なりわい}生業さまざまなれど

^{つど}集いて図る心は一つ

求むるところは^{やからどむつび}平和親睦

力むるところは向上奉仕

お、ロータリアン

我等の集い

それでこそ

ロータリー

東京RC

作詞 矢野一郎

どこで会っても やあと言おうよ

見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ

遠い時には 手を振り合おうよ

それでこそ

ローローロータリー

奉仕の理想

元京都RC

作詞 前田 和一郎

元東京RC

作曲 萩原 英一

奉仕の理想に集いし友よ

御国に^{なりわい}捧げん我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー

手に手つないで

東京RC

作詞 矢野一郎

手に手つないで つくる友の輪

輪に輪つないで つくる友垣

手に手 輪に輪

ひろがれ まわれ 一つ心に

お、ロータリアン

お、ロータリアン

創立30周年式典参列



鹿児島西ロータリークラブ 創立30周年記念

のご来賓・全会員



成5年3月24日 於:サンロイヤルホテル

西RC30周年大会記念式典・祝賀会風景

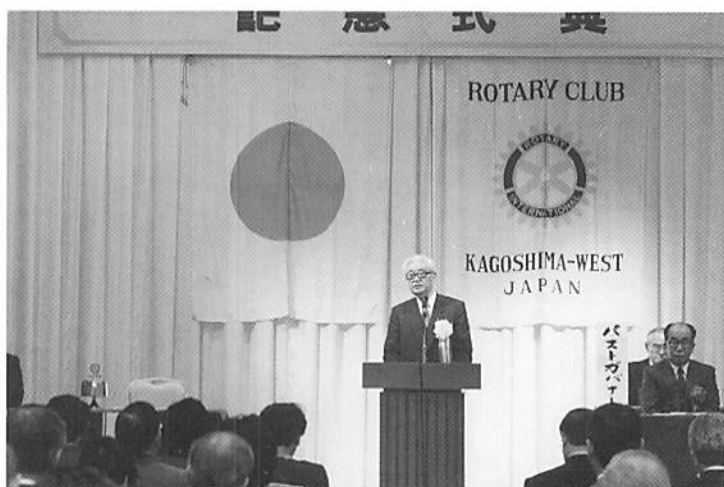


⇐ 受付風景

⇨ 来賓の方々に前に開会のことは



⇨ 会長あいさつ



⇒ 市長祝辞



⇐ ガバナー祝辞



⇐ 物故会員の追悼



⇨ ローターリー賞さわやか会表彰



⇨ 青少年文庫図書贈呈



⇨ 本坊ガバナ―へ記念品贈呈

⇒ 祝賀会ーブルニエール・
ブランシェの合唱



⇒ 宴会風景



⇒ 斉唱、出席者全員の
手に手つないで



目 次

• 30周年を迎えて	1
• 四つのテスト	2
• ロータリークラブの綱領	2
• ロータリークラブの歌	3
• 創立30周年式典参列のご来賓・全会員	4
• 西R C 30周年大会記念式典・祝賀会風景	6

〔第 1 部〕

1. 20年史要約	11
2. 西クラブ創立の前後・高井敏治氏の話	12

〔第 2 部〕

1. 式典ならびにプログラム	17
2. 式 辞 会長あいさつ	19
祝 辞 鹿児島県知事	21
鹿児島市長	22
地区ガバナー	23
鹿児島R C会長	24
鶴岡R C会長	25
3. 30周年記念表彰者	26
4. 30周年記念事業	26
5. 西ロータリー学習会	27
6. インターアクトの歩み	28
7. ローターアクトの歩み	29
8. ロータリー賞の贈呈者（第18回以降）	30
9. 鹿児島西R C友愛文庫（昭和59年度以降）	31
10. 西ロータリークラブ奨学金	32
11. 物故会員	32
12. チャーターメンバー	32
13. マルチプル・フェロー	33
14. ホールハリス・フェロー	33
15. ホールハリス準フェロー	33
16. 30周年記念実行委員会組織	33
17. 来賓ご芳名	34
18. 会員随想	36

〔第 3 部〕

1. その後の10年の歩み	45
2. 現在の会員名簿	75
3. 編集後記	79

第 1 部

20 年史要約

鹿児島西ロータリークラブは昭和38年3月23日に鹿児島ロータリークラブをスポンサーとして誕生し、昭和58年3月23日で20周年を迎えたが、その間に5周年式典、10周年、20周年式典をあげ、会員も創立当時の24名から86名という大世帯に発展して参りました。また外部への拡がりも昭和42年6月にスポンサーとして加治木クラブを創設、つづいて昭和47年10月にはスポンサーとして加世田クラブを同年12月に枕崎クラブの新クラブを結成致しました。

また県外クラブとの懇親を深める意味から山形県鶴岡市の鶴岡ロータリークラブと昭和40年5月に兄弟盟約を結びました。これは明治維新における西郷南洲先生の遺徳により庄内藩と薩摩藩の縁にあやかり、名与会員の鮫島志芽太氏の尽力もあってできたものであり、いらい今日まで変ることのない交友の交流をつづけています。

つぎに20年間の活動として取り上げるべきことは昭和39年10月に本県下初めてのインターアクトを鶴丸高校に昭和47年6月に鹿児島高校に結成しましたが、この際には故柴山一雄会員の善々ならぬ努力がありましたし、R1創立七十五周年を記念しこの両校には昭和55年に「鹿児島西ロータリークラブ奨学金制度」を発足させ、毎年4名あて月額1万円の奨学金を贈呈し青少年の育成、勉学に努力しています。またローターアクトについては昭和51年6月に鹿児島西ローターアクトを発足させ若い社会人の育成に努め、昭和54年2月には「唐津東ローターアクト」と姉妹盟約を締結しました。

社会奉仕、職業奉仕の面において特筆すべきは「鹿児島西ロータリー賞」の設定であります。これは初代会長の故桜美四郎さんの提案で陽のあたらない場所で社会の為に黙々と奉仕に励んで居られる方々を表彰しようというもので、第1回（昭和40.11.7）の「おぎやー献金運動」の提唱者遠矢善栄氏（大口市開業医）に差し上げてから毎年西ロータリー創立記念日にそれぞれの方に贈呈してきております。また鮫島志芽太会員の寄付金を基金にして出来た「友愛文庫」は離島や辺地の小中学校の児童生徒たちの読物として献本を続けています。これはニコニコ寄付金から毎年繰り入れた資金をあてています。また20周年を記念して鹿児島県立図書館に金百万円を贈呈「鹿児島西ロータリー青少年文庫」を設立、以来毎年可能な限りの図書費購入資金の贈呈を行ってきております。

このほか故土橋滋会員の産院で昭和53年に誕生した「四つ子に対する育成基金」や川上鐵太郎さんの提唱で始まったロータリー美術展などがあります。また福田正臣さんの提唱で創られた毎月1回の「学習会」は西ロータリークラブの素晴らしい特色を示すものであり、くわしいことは福田正臣さんの「学習会について」の項をみていただきたい。

また、20年間の西ロータリーの思い出として、その間のもようを創立当時から会員である高井敏治さんに書いていただきましたので、それを掲載して20年の歩みをふりかえっていただきたいと思えます。

— 西クラブ創立の前後 —

鹿児島にロータリーがまだない頃、九州には戦前からの4クラブ、戦後創立が6クラブありました。終戦後ふえて参りましたロータリアンは、国内旅行の際、クラブのない都市へは行こうとしなかった。メイキャップができなかったからです。東京在住の人で、鹿児島に帰ってもロータリーがないので困ると商工会議所へ話す人もあったといひます。またアメリカへ旅行するのに、ロータリアンの資格がほしいと思う人も出て来たのであります。

こういう状況の中で、当時鹿児島商工会議所会頭でありました勝田鹿児島銀行頭取は、当時の商工会議所の専務伊集院兼隆さんにロータリーをつくるように言われたが、なかなか実現しなかったのであります。そういうときに、南日本新聞社長の島中季隆さんが昭和27年4月にアメリカに行かれることになりました。伊集院さんが鹿児島駅で見送りの際に、ロータリーができず申訳ありませんと陳謝したという記録が残っております。(鹿児島クラブ20年史による)

こういう動きがある中で、福岡クラブから強力な働きかけがあつて、昭和27年10月に鹿児島クラブが仮クラブとして結成されました。設立の書類が英語ばかりで苦勞したということです。

仮クラブの創立総会が鶴丸荘で開かれましたが、その例会では福岡クラブの例会に出席した報告があつて、「例会には必ずバッジをつけてくること。つけていないと遅刻同様に罰金をとられます。また私語を許さず、童心にかえり、あくまでも無邪気な集まりでありたい」と記録されております。当時の隣接クラブは熊本クラブ、宮崎クラブで、メイキャップがとても大変でした。バスを仕立ててメイキャップに行ったこともあります。川内クラブが2年後にできて、大分楽になったがそれでも1日がかりであつたようです。従つて出席率があるい、その対策として創立2年目に6人で1組のチームをつくり100%出席組は例会で称讃の拍手をおくられるが、最劣等組は全員起立して陳謝するというやり方をとつたところ、出席率92%になって61地区(広島以西)の平均に達したということです。

私の父が早くから鹿児島クラブに入つておりましたので、父から聞いた話ですが、小牧才二さんと上原三郎さん。このお二人が例会場に入つて来て出席表のグラフの前で一しょになると「お前は出席がよすぎる、もちつと休め」。「ウンニヤ、お前の方がよすぎる、ワイくせか、もちつと休め」と大声で言い合うのだそうであります。

出席を奨励するクラブの中で休め、休めと言い合うのはアマノジャクだと思つてお二人は草牟田小学校以来の友人でありましたし、お人柄がよく現われた話だと思つております。

その頃は1年連続出席しますとバッジの上に白い数字で1、2年は2という数字をつけたのを佩用しておりました。またロータリーで重要な役目をした人は宝石をはめたバッジをつけたりしましたが、ロータリーのバッジを改造するのはよくないという意見があつて、今はまず見られません。今も売つてはいるそうです。

さて鹿児島クラブの6年あとに南クラブができました。動機は鹿児島クラブも69人になり会場がせまくなつたこと、R Iも外部拡大を要請したということのほか、鹿児島クラブへの入会が困難であつたという事情もあるようです。(南クラブ記念誌による) 地区誌には鹿児島クラブが地区

大会をホストするので、戦力増加のため南クラブを作ったと記してあります。

その5年あとにわが西クラブが、これも鹿児島クラブをスポンサークラブとしてできました。西クラブのできた動機というのは、当時鹿児島の人口増大と経済の発展によってロータリアンになる人がふえたためと記されています。

西クラブができたのは昭和38年3月23日で県内では6番目でした。鹿児島クラブから桜美四郎さん、土橋英夫さん、岩元健吉さんが移籍され、チャーターメンバー24人で、例会は毎週木曜日、例会場はホテル鶴鳴館でした。事務局は日本ガス内におかれましたが、後で人の集まりに不便だということで鶴鳴館の一室に引っこしました。

4月には鹿児島クラブ創立10周年祝賀会をかねて、インターシティゼネラルフォーラムが開かれこれに参加しております。

5月には西クラブ第1回家族会が桜島のハマチ養殖場でひらかれました。会員17人、家族40人が参加、これがとてもよかったと後々まで聞かされました。

西クラブのはじめの頃の例会は、鹿児島クラブの事務局長だった佐々木中吉さんのロータリーの講義ばかりで卓話なしです。当時の事務局は鹿児島クラブにいた島津重子さん。とても有能な方で、佐々木さんが彼女を西にやるのじゃなかったとよくこぼしておられました。

同年11月20日にチャーター伝達式が山形屋5階ホールでありましたが、ロータリアン219名、家族82名、来賓13名、合計314名の参加者がありました。ロータリアンの少ないころですから、よく集まったものと思います。

チャーターナイトは新クラブとして大ぜいのゲストに祝福され大成功でしたが、新クラブとしては大変な行事で、この困難によってクラブが一つにまとまったものと思います。

このとき松方三郎さん（元共同通信専務）が来られましたが、山の話が出てネパールのような小さな国のガバナーなら、もう一度やってもいいなど、個人的に話して下さいました。

西クラブの例会はホテル鶴鳴館の広間で人数も多くなく、よい雰囲気でした。やがてピアノがクラブと鶴鳴館の折半で購入されて土橋英夫さんのお嫁さんが弾いて下さいました。後で鎌田範政先生にかわられました。その頃有馬まり代先生の指導でロータリーソングの練習も重ねましたし、「西クラブの歌」というのもできました。

例会は鶴鳴館の食事とサービスがよいのでビジターが多い、そうしますとビジターの中途退席者も多いという現象がおこります。なぜか知りませんがロータリアンはホームクラブでは中退しないが、他クラブの例会では早退する傾向があります。

ある時、鹿児島クラブの岩元達一さんがビジターで見えて慶応大学時代の友人水原監督をつれておられました。卓話の前に水原さんに一寸お話しをとお願ひしたのですが、一人も中座する人がいない。有名人の話には魅力があるものと思われました。

林幸光会員が音楽学校の同級生、高木東六さんをつれてこられたときも卓話の前に話をしてもらいました。この時も早退者が一人もありません。高木東六さんはその頃笠置シズ子さんなどと毎週テレビに出ていた有名人でした。こういう人は話し方が上手で内容が興味深いものが多いようです。

西クラブのはじめの頃の状況ですが、初年度は4ヶ月位で2年度に入ります。2年度も会長桜美四郎さん、幹事の川村洋さんが留任されました。西クラブの10年史によると、桜美会長の方針は、他

のクラブに負けない立派なクラブを作りたい。特徴のあるクラブにしたいということでありました。それには何とんでも会員の質の問題が大事になってくる。そこでよい人を入れようとしたが、一番困ったのはロータリークラブに入りたいという人が多くてことわるのに苦心したことであったと述べておられます。人がクラブの性格を形づくるということで、西クラブの入会はずい分きびしく、気の毒な思いをした方がかなりあります。

次の会長が土橋英夫さん、この年に柴山一雄さんの努力で鶴丸高校インターアクトクラブが結成されました。県下で第一号のインターアクトです。柴山さんは青少年のほかにも加世田と枕崎クラブの創立にも大変御苦労なさいました。いわゆるロタキチ = ロータリー気狂い = の一人でありましょう。鶴岡クラブとの交流も大きな活動の一つでした。これは鮫島志芽太さんのおかげです。西クラブは創立5年目で加治木クラブ創立のスポンサークラブになりましたが、昭和51年には塘さんをガバナーとして出しました。(創立14年目)

柴山さんが地区幹事、私が地区副幹事、公認会計士の岡山栄さんが地区会計長でした。ガバナー事務所は柴山歯科におきました。地区内のクラブの中には毎月の出席報告のおくれるクラブ、送金のおくれるクラブがあって整理に困りました。ガバナーの訪問するクラブの順番、日どりをきめるのにも苦心しました。夜になると、よく地区内のえらい人から電話があってその返事に閉口したことでした。

ガバナーを出したクラブが地区大会のホストになるしきりですが、塘さんの頃は順番が一つ狂って都城で地区大会をやって、次の八代の西田ガバナーのとき西クラブが地区大会のホストクラブをやりました。

塘さんは御苦労も多かったのですが、ガバナーの任期が終って半年ばかりで亡くなりました。奥様にすまないような気がします。

クラブのできたころは御夫人のクラブ参加も活動的で、桜島のハマチ養殖場での家族会につづいて、チャーターナイトには全員参加して加勢して下さるという状況で、御夫人同志の交りも深くなって、クリスマス家族会にもよく参加して下さいました。

初期のころはこういう親睦、出席といったこと、自分のクラブはどんなクラブかは自分ではわからないが、多くのクラブを見て廻るガバナーによくわかるようです。公式訪問で熊本の吉村常助ガバナーにテリトリー問題などできびしく指摘されたことは忘れることはできません。

今から考えるとクラブが出来たばかりのころはガバナーも指導・教育に主眼をおくが、4、5年たったクラブでしたから、ちょっとしごいてやるかという時期だったかもしれません。

公式訪問されたガバナーの中には、鹿児島クラブは商工会議所風、南クラブは専門店会風、西クラブはアカデミックな趣きがあると評された方もおられます。別なガバナーは出来たばかりのクラブでは若い人が多く活発である。30年もたったクラブに行くと、創立当時のメンバーも年をとり、そこには何ともいぬ雰囲気があるものだと語られた方もおられます。私は西クラブも30年もたったならそんなになるのかなと思ったことでした。

ビジターでこられたロータリアンの意見もいろんなものがあります。西クラブが例会で握手をはじめた頃、西クラブに行くと食事前に握手をするが、そのあとすぐパンを手にするのは不潔だと言われました。あまり世間を気にして横ならびになってしまうのは特色が出ないとも思われます。

お客さんにほめていただくのは悪口をいわれるよりはいいことですが、外交的辞令だと思うことです。ロータリーはまた人とのふれ合いでもあります。

これまで思い出に残る会員は何人もおられますが、その中の一人は椋鳩十こと久保田彦穂さんです。クラブの例会には会長の時間というものがありますが、椋さんが8代目の会長時の挨拶は内容が豊富で興味深いものばかりでした。私など椋さんの話を聞くのが楽しみで例会へ出かけたようなもので、全国に通用する作家というのは何と物識りなものとと思いました。椋さんは時々昔の話をされ、その時は感心して聞いていましたが、しばらくたってみると、こんなすばらしい説話だったら私たちでも少しは知っていたにちがいないと思えるので、どうやら椋さんの創作だったらしいのです。考えてみれば話を作り出して人に感銘を与えるのは椋さんの天職だったわけで、話をして私たちを喜ばしてくれたのは職業奉仕とも言えましょう。また後になって椋さんには「感動は心の窓を開く」ことも教わりました。

もう一人特異な会員をあげますとアメリカの教会から派遣されていた春山ジャスティン、サラ夫妻です。ロータリーの構成にはアメリカの習慣、物の考え、プロテスタントの信仰が大きく作用しております。それらはアメリカをよく知らないとうわらなないことがあります。私達は春山夫妻に多くのことを教えてもらいました。また5年たったら一年の休暇があるとかで、家族ぐるみ帰国され、その間休会されたのも驚きでした。

西クラブの音楽、文学の伝統は現在も引きつがれ、会員の住吉三滋さんによるロータリーの歌の指導やピアニスト有馬志享さんの美しい演奏がいつも西ロータリーの例会を飾っております。

また美術には小池鐵太郎さん、永松実夫さんがおられます。川上鐵太郎さんの提唱で県内に呼びかけてロータリー小品展がはじまりました。書画の出品者は西クラブが大半を占めました。今はチャール会と合同で展覧会を開いております。川上さんを師匠にして中村俊雄さん、中村善治さん、土橋滋さんなどと弁当持ちでよくスケッチに出かけたものでした。

西クラブも30年たって人数もふえ、シニアもふえましたが初代桜美会長の求められた他のクラブに負けない立派なクラブを目ざして、よいところは伸ばし足りないところは補ってますます活動的なよいクラブになるように願ってやみません。

平成5年6月

21代会長 高井敏治

第 2 部

鹿児島西ロータリー30周年記念式典

鹿児島西RCの創立30周年記念式典は平成5年3月24日(水)午後4時30分から
鹿児島市のサンロイヤルホテルにおいて開催された。

＝ 式典プログラム ＝

司会 小 山 幸 義
ピアノ 有 馬 志 享

○開 式 の 辞 記念実行委員会副委員長 小 園 正 人

○国歌「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

ソングリーダー 住 吉 三 滋

○物故会員に黙祷

○来 賓 紹 介 会 長 岩 元 紀 彦

○会 長 挨拶 会 長 岩 元 紀 彦

○来 賓 祝 辞 鹿児島県知事 土 屋 佳 照 殿

鹿児島市長 赤 崎 義 則 殿

第2730地区ガバナー 本 坊 蔵 吉 殿

鹿児島RC会長 種 子 田 眞 殿

鶴岡RC会長 迎 田 稔 殿

○祝 電 披 露 幹 事 玉 川 哲 生

○記念事業発表 記念行事委員長 海 江 田 卓

○鹿児島西ロータリークラブロータリー賞贈呈

選考経過説明 推せん委員長 岩 男 秀 彦
ロータリー賞贈呈(さわやか会)

○鹿児島西ロータリークラブ青少年文庫図書贈呈

○記念品贈呈

本坊蔵吉ガバナー
鶴岡ロータリークラブ

○チャーターメンバー表彰(2名)

○高齢者会員記念品贈呈(5名)

○謝 辞

ロータリー賞受賞者 さわやか会 大竹山 亘 子 殿
青少年文庫受贈者 県立図書館長 児 島 正 憲 殿

○閉 式 の 辞 幹 事 玉 川 哲 生

＝ 祝 賀 会 ＝

司 会 古 木 圭 介
○挨 拶 記念実行委員会副委員長 岩 男 秀 彦
○乾 杯 名誉会員 鮫 島 志 芽 太

..... 開 宴

○アトラクション

(出演) プルニエールブランシェ 指 揮 住 吉 三 滋
来賓並び会員等によるアトラクション

○斉 唱 “手に手つないで” ソングリーダー 住 吉 三 滋
ピアノ伴奏 有 馬 志 享

○万才三唱 パストガバナー 大 津 篤 造 殿

..... 散 会

ごあいさつ



鹿児島西ロータリークラブ

会 長 岩 元 紀 彦

本日、鹿児島西ロータリークラブが創立満30周年を迎えることが出来ました。昭和38年3月23日に鹿児島クラブをスポンサークラブとして誕生して30年目であります。今日これを記念いたしまして、記念式典を催すことになり御案内申上げましたところ、多数の来賓の方をお迎えして開会することが出来ますことは、会員一同心より感謝申上げる次第でございます。

この意義ある年の会長として、皆様に御挨拶申上げる機会を与えられましたことは、私の非常に光栄のことと思う次第でございます。

30周年ともなるとチャーターメンバーで現在残っておられる会員は川村洋会員、小山幸義会員の二人だけになっております。そして多くのこの西ロータリークラブを育てられた先輩会員の御苦心に感謝するとともに、物故された先輩会員に対し、心から御冥福をお祈り致すものでございます。

創立以来30年間各年度のR1会長のターゲットを目標とする奉仕の理想に向かって、一年一年充実した活動が続けられて参りましたが、30年前24名で孤孤の声を上げた当クラブも現在97名という大世帯となり発展を遂げて参りました。

まず第一にクラブの拡大について申し上げますと、外部拡大として42年に加治木クラブ、47年に加世田クラブ、枕崎クラブ、61年に城西ロータリークラブにスポンサーとして新クラブの結成を見ました。また、昭和40年5月に山形県鶴岡クラブと兄弟盟約が結ばれましたが、これは明治維新に際し鹿児島の生んだ英雄西郷隆盛翁のはからいにより、朝敵とされた庄内藩に寛大な措置をされたという遺徳が縁で、兄弟盟約が結ばれました。

さらに、明治維新直前島津藩の英国留学生の中で一人だけ帰国せぬまま米国に残りカリフォルニアのぶどう栽培の先駆者となり、カリフォルニアぶどう生産の先達として現地で尊敬の的になっている長澤鼎翁の遺徳が縁で、米国カリフォルニア州サンタローザのサンライズRCと姉妹盟約が結成されたことは、我がクラブの誇りと自認しております。

第二に青少年奉仕部門の活動でございます。現在インターアクトクラブが、鶴丸高校と鹿児島高校に設立されて、次代を担う青少年の健全な育成のための奉仕として力を入れていますが、鹿児島高校インターアクトにおいては我が会員参加の下に「職業選択フォーラム」を開催して、インターアクトクラブ会員に多くの感銘を与えました。また、ロータリーアクトクラブも極めて熱心なクラブ活動を続け、ロータリアンも必ず例会に出席しています。又サンライズRCと毎夏高校生を交換学生として交換しあうことも行っています。

第三に職業奉仕、社会奉仕の部門についてですが鹿児島西クラブロータリー賞を制定しておりま

す。これは初代会長である櫻美四郎氏が提案され、陽のあたらない場所で社会のために、黙黙として奉仕に励んでおられる方方を表彰しようというものであります。先日亡くなられました「おぎや一献金」の提唱者遠矢善栄氏を、40年10月表彰したのが第一回で、その後毎年表彰を続けていますが、本日も体の不自由な老人の方方を長年にわたって、世話してこられた主婦のグループ「さわやか会」の人達を表彰する為に、この式典にお招きしております。

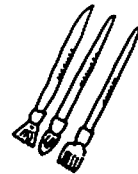
また、昭和54年2月より発足した避地の小中学校に対して「友愛文庫」の贈呈を続けて行っています。また10年前の20周年記念事業として、県立図書館に「鹿児島西ロータリークラブ青少年文庫」を寄付して、これも毎年献本を続けています。このような毎年継続して行っている事業には、常に新しい意義が生まれ、立派な奉仕活動になっていくものと信じます。

第四に国際奉仕関係であります。先に述べましたとおり、カリフォルニア州サンタローザのサンライズRCとの姉妹盟約が結ばれたことは、我がクラブが偉大な長澤鼎翁がとりもつ、日米の懸け橋が縁であることに大きな意義を感じております。今後も長くこの盟約を大切に、当クラブの国際奉仕の基としたいと思っています。

サンライズRC、広島RC及び西RC三者合同で南米コワイケRCに同地の小学校へストーブ、ベッドの購入のため毎年1000ドルの援助を行っているのも、この関係で行っているものです。

このように、自画自賛ではありますが、30年の間に各部門でロータリーの精神である奉仕と友愛の、すばらしい華が開いている感を深くするものであります。今後、なお40年、50年と歴史を経るごとに、一層充実したクラブに成長することをめざしております。これも今までのガバナー始め、多くの先輩の方々の御指導により現在のクラブになり得たと思ひまして、あらためてお礼申し上げます。

粗辞を長長述べましたが、意のあるところをお汲みとり願ひまして私の式辞といたします。



創立30周年を祝して



鹿児島県知事

土屋佳照

鹿児島西ロータリークラブの創立30周年を心からお喜び申し上げます。

貴クラブでは、昭和38年の設立以来奉仕の理想のもとに着実に充実発展を遂げられ、今日、地域社会発展のリーダーとして大きな役割を担っておられます。社会福祉、青少年育成、国際交流、地球環境問題など幅広い分野で大きな成果を収められ、県民から大きな期待と信頼を寄せられていることは、ひとえに歴代会長さんをはじめ役員並びに会員各位の社会奉仕に対する情熱とたゆまぬ御努力のたまものであり、心から敬意を表します。

今日、冷戦構造が終結したとはいえ、国際社会はなお不安定のままに推移しております。我が国も、景気が低迷するなど多くの課題を抱えており、このような中において本県もまた、情報化や国際化が進み、産業構造も変化し、高齢化が進行するなど大きな転換期を迎えております。これから21世紀にかけて、こうした状況に的確に対応しながら、本県の特性を生かし、豊かさゆとりを実感できる生活先進県の実現を図らなければなりません。

鹿児島は、政治・経済の中核地域から遠く、過疎・後進性からなかなか抜け出し難い面もありますが、豊かな自然や歴史・伝統など他に誇れる良いものをたくさん持っています。また、県民が自信を持ってやる気を起こせば必ず大きく前進できると思います。現に、県民の悲願であった九州新幹線は、各界各層の方々の18年間にわたる努力が実り一昨年9月本格着工に踏み出すことができましたし、現在、新幹線西鹿児島駅の整備とともに着実に建設が進められています。農産物のブランド確立運動も、関係者の懸命の努力で着実に実りあるものになっています。屋久島も、世界遺産条約に基づく我が国初の自然遺産としてユネスコに推薦され、鹿児島屋久島から世界の屋久島になろうとしています。

私は、鹿児島を持つ可能性、多彩な豊かさをもっともっと引き出し、県民と一体となって県勢の発展に努めたいと決意を新たにしております。特に、錦江湾ウォーターフロントの整備やグリーンプラン21の推進等により、鹿児島を美しい潤いのあるまちづくり、緑にあふれたむらづくりの面で際立たせたいと思います。

しかしながら、これは行政努力のみで実現できるものではありません。今後とも、奉仕の理想を掲げたロータリークラブの皆様御協力をいただきながら、「すこやかな郷土、ゆとりの文化圏域」を目指して、幅広い施策を推進したいと思います。

会員の皆様には、栄えある創立30周年を契機に相互の団結と融和を一層深められ、21世紀へ向け更に輝かしい歴史を築かれるよう期待いたします。そして、心豊かな地域社会実現のため今後とも御尽力くださるようお願い申し上げます。

鹿児島西ロータリークラブの一層の発展と、会員各位の御健勝・御活躍を心からお祈りします。

お祝いのことば



鹿 児 島 市 長

赤 崎 義 則

鹿児島西ロータリークラブが創立30周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。
鹿児島西ロータリークラブの皆様には、昭和38年に設立以来、一貫して国際親善と世界平和を願って、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕等の活動を通して、明るい地域社会づくりに大きく寄与されてまいりました。ここに、深く敬意と謝意を表する次第であります。

今日、私たちを取り巻く社会は、民族紛争やテロなどの政治的紛糾、人権の抑圧、貧困の深化など人道問題とともに、地球温暖化、オゾン層の破壊、森林破壊など地球規模の環境問題など、国や地域を越えた国際協力なくしては片づかない問題が山積しております。日本がこれらの問題にどのように対処し、どのような役割を担っていくのか、国際社会の一員としてその真価がまさに問われているときであると思います。

このように真の国際化が求められる中、皆様方ロータリアン一人一人が友愛と寛容に満ちた人類愛を養いながら、これからの国際社会を担っていく青少年の健全育成や思いやりのある地域づくりなど心のふれあうコミュニティづくりを進めていくことが、世界平和と人類の繁栄を築くものと確信しております。

どうぞ皆様方には、この意義ある30周年を一つの契機として更に相互の融和と団結を深められ、国際的視野に基づく奉仕活動等を通じて人類の恒久平和と幸福のためご尽力いただくとともに、南の拠点都市鹿児島の発展のためにも一層のお力添えを賜りますよう願いたします。

終わりに、鹿児島西ロータリークラブのますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

祝 辞



国際ロータリー第2730地区

ガバナー 本 坊 蔵 吉

本日鹿児島西ロータリークラブ創立30周年記念式典が、姉妹クラブの鶴岡ロータリークラブを初め関係各ロータリークラブの皆様のご臨席を賜り、盛大に挙行されることを心からお慶び申し上げます。

論語に「朋有り遠方より来る、亦楽しからず乎」とありますが、これこそ本日の祝典にぴったりあてはまる言葉ではないかと思えます。

顧りみますと当クラブ誕生以来30年、歴代会長・幹事の献身的な活動並びに会員各位の積極的な協力により、ロータリーの理念を推進し、順調な成長を遂げ本日に至っています。

この間、外部拡大に努め海外ではサンタローザロータリークラブ、国内の鶴岡ロータリークラブとの姉妹盟約を結び、加治木・枕崎・加世田・鹿児島城西各クラブのスポンサーとなって創立しています。

毎年R I会長は、その年度の実践をテーマで示していますが、その始まりは1953年ホアキン・シビルスで「クラブがふえれば友人が増す、友人がふえれば奉仕の機会が増す。」であります。それ以来R I会長は、テーマを出すようになりました。本年度ダクターマンR I会長のターゲットは、「まことの幸福は人助けから」であります。ロータリーは「モザイク」と言われ、歴代会長のテーマにもそれぞれ時代の移り変りに順応したものとなっております。ポール・ハリスも「Rotaryのストーリーは何回も書き換えられねばならない。」と申しています。

本年度ダクターマンR I会長は次のプロジェクトを推進したいと申しています。

それは、「機能的文盲、環境保全、飢えた人々に食料をもたらす、高齢者への思いやり、世界社会奉仕、ロータリー村落共同隊、ローターアクト、インターアクト、青少年交換、世界親睦活動、友情交換、その他諸々の平和と理解のためのロータリー財団プログラム」であります。

21世紀のロータリーを展望するには、先ず過去を知り現在を認識し、その上に立って未来像を描くことが必要であります。ロータリーの過去は、先輩達の努力によって今日の栄光が築かれています。

今、社会は21世紀を目前に高齢化、国際化、高度情報化等に向かって大きく変動しつつあります。このような社会的流動の中で、皆様会員は、地域社会発展を願う崇高なロータリアン精神のもと人間愛に満ちた明るい社会を築きあげて行く原動力となっております。

ここに30周年を迎えるに当り、この機会を契機として30年の足跡を顧み、現実を見つめ脚下を照らしながらロータリーの本質を追求し、未来に向かって大きく飛躍することを念願してご挨拶と致します。

祝 辞



鹿児島RC会長

種子田 眞

本日は鹿児島西ロータリークラブ創立30周年の記念式典に、お招きいただきまして誠に有難うございます。心よりお慶びを申し上げます。

昭和38年3月23日、現在この様に輝かしい御発展を続けて居られる貴クラブの御誕生に、私ども鹿児島クラブが聊か御手伝い出来ましたことに、深い感慨を禁じ得ません。

創立当時は、時恰も日本経済高度成長の真盛りの中にありまして、以来、年を重ねられます程に、総ゆる分野でクラブ活動を推進して来られた皆様の御苦勞と素晴らしい実践の積重ねが、斯うして鹿児島の名門、鹿児島西ロータリークラブとして輝かしい壮年の日を迎えられることに、心から敬意を表する次第でございます。

歴代の先達の皆様の御業績を引継がれた本年度・岩元会長さん、玉川幹事さんを中心に、本記念事業の準備委員会と実行委員会を結成され、この様な素晴らしい記念式典に漕ぎつけられました裏には、本年度CLダクターマンRI会長のテーマ「まことの幸福は人助けから」を、岩元会長さんが「国際、社会奉仕の域にとゞまらず、お互の職域に家庭に、又、青少年にも呼びかけて行き、意識の高まりを伝えてゆくことにある。」と表現され、年度方針としてそれを実践されている御努力の積重ねがあり、その姿を目のあたりに致しますとき、私共鹿児島クラブと致しましては将に賢弟をもつ愚兄として内心忸怩たるものがございます。

再来年は三角桂次郎ガバナーを擁立され、更に更に躍進をつづけられる訳でございますが、明日からは次の40周年、50周年にむけて、又、21世紀への幕開けにむかって、輝かしい歩みをつづけられる鹿児島西ロータリークラブが、益々御発展されます様に、加えて会員の皆様の御健勝をお祈り申し上げまして、お慶びの御挨拶にかえさせていただきます。

本当におめでとうございます。

お祝いのことば



鶴岡 R C 会長

迎 田 稔

本日は鹿児島西 R C が創立30周年を迎えられましたこと誠にお目出とう御座居ます。

この式典に鶴岡の気候にまで気くばりを下さったお招きを頂き、鶴岡 R C 会員・家族28名が参加出来ました。訪問の機会を与えて下さったことに参加者一同を代表して感謝します。貴クラブのロータリー賞の設定や青少年文庫の育成それに奨学金制度の制定など長い間の独自の奉仕活動に心からの敬意を表します。

さて貴クラブと鶴岡クラブが昭和40年5月に姉妹クラブの盟約を結んでから30年近い歳月になります。

この間、西郷南洲翁の遺徳により両クラブの様々な交流については、貴クラブの20年誌、鶴岡クラブ30年誌に詳細に記録されています。

先の鶴岡 R C 創立30周年の式典では、鯨島志芽太先生から“敬天愛人を実践した南洲翁と庄内の高士”と言うテーマで南洲翁と庄内藩との交流についてくわしく感動的な御講演を頂きました。又、記念事業として南洲翁の真筆をもとにした敬天愛人の碑を市内に建立しました。又、この年は鹿児島市市制百周年、そして鹿児島市と鶴岡市との兄弟都市盟約、約20周年という記念すべき年でもありました。

記念式典に祝辞を頂きました貴クラブの元会長中村善治氏の挨拶の中に南洲翁の戊辰の役の後の庄内藩に対する戦後処理のあり方と共に、その時台湾から鶴岡 R C と姉妹クラブである台中港区 R C のメンバーも多数参加されていましたためでしょうか、蒋介石元総統の世界大戦終了後に言われた“暴に酬ゆるに暴を以てすることなかれ”の言葉を引用されて、ロータリーの理念の奉仕の理想とは思いやりの心であり相手の立場に立って考えることだとのお話しに感激した記憶が未だに心の中に残っています。

くしくも本年度 R I のテーマに“真の幸福は人助けから”を私は相手に対する思いやりの心と理解しています。

以前にインターアクトクラブやローターアクトクラブの設立の際に御助言を頂き何度も鶴岡にお出で下さった私と同業の柴山一雄先生が亡くなられてからも10年近くになります。これからの姉妹クラブのあり方を考える時先人の残された業跡を守りつつ、私達の関係が永く続く様にお互いに協力し合う必要もあるのではないのでしょうか。これからより永い友情の発展と鹿児島西 R C の一層の御繁栄また会員、御家族皆々様の御健勝をも祈念してお祝いの言葉とします。

本日はまことにお目出とう御座居ます。

平成5年3月24日

〈30周年記念表彰者〉

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 鹿児島西ロータリークラブロータリー賞受賞者 | さわやか会 |
| 2. チャーターメンバー（2名） | 川村 洋
小山 幸義 |
| 3. 高齢者会員（5名） | 新福 栄熊 M34.11.25 91歳
徳田 基 M39.1.10 87歳
平岡 禎吉 M39.3.10 87歳
川上 鐵太郎 M45.6.2 80歳
浜田 馨 T1.11.4 80歳 |

さわやか会のプロフィール＝代表大竹山亘子さん＝鹿児島市山下保健所の市民学級で看護や福祉等について勉強し合った15名の主婦のグループで、昭和51年から現在まで16年以上もひき続き老人福祉施設の訪問奉仕活動を続けてきま

した。特別養護老人ホーム“ひまわり療護園”をはじめ“清谿園”のデイサービスなど、重度の心身障害を持つ老人の身の介助、お世話などに献身的に取り組んでおられます。

〈30周年記念事業〉

＝写真集 1992鹿児島見たまま＝

30周年の記念事業として1992年（平成4年）における鹿児島市の姿＝風景、行事、四季を写真として記録しました。発展する鹿児島市の歴

史資料として、いくらかでもお役に立てば幸いと存じます。撮影は南日本新聞社の星原昌一写真部長と会員の写真愛好家にお願ひ致しました。

〈青少年文庫への図書贈呈〉

昭和58年当クラブの20周年を記念して、県立図書館に100万円寄贈し「鹿児島西RC青少年文庫」を創設し、爾後毎年創立記念日に図書費

を贈呈し、現在1950冊になっております。本年度も30周年記念式典において、図書費を贈呈し、文庫の充実をはかることとしました。

西ロータリークラブ学習会について

昭和53年8月に始まった学習会は、以来毎月1回おこなわれてここに15年に及び、この7月で180回を数えるに到った。よくここまで続いたものだと感心する次第である。

先ず、ことの始まりから述べてみたい。

昭和53年の7月、新年度の情報委員長になった私は、会員一同にロータリーに関する重要な情報を提供したり、新入会員を指導したりするという、多分に教育的な役目になわなければならないということを考えた時、これは大変なことになったと大いに緊張をおぼえた。入会して6年とはいうものの不勉強で未熟な私はそこでロータリーについて基礎からしっかり勉強しなれやと思立った。一人でするよりも希望者を集めて一緒に勉強する方が楽しいと思ひ、先ず池田広君、瀬戸山勝資君を誘って計画を立て、更に広く希望者を募っていよいよ発足の運びとなつて、翌月8月に第一回の勉強会を開いた。出席者は9名であった。勉強は、当クラブの会員であった山下静雄先生（当時、鹿児島大学教育学部教授。故人）にロータリーに関する講義をして貰って聴くということから始まった。

山下会員はロータリーについて広く深く研究して居られ、大変造詣の深いお方であった。1時間乃至1時間半の講義をきき、あと質疑応答がなされた。ひきつづき9月、10月……と順調なすべり出しでこの勉強の会は毎月励行された。やがて一通り講義が終わってからは、或テーマについて山下会員を囲んでの自由な討論、座談という形になって行つた。出席者もだんだん増えて時には15、6人のこともあつた。会を重ねるにつれて出席者は進んで発言し、時にはきびしい討論、時には談笑ありで、楽しくもいい勉強になるという有意義な会になって行つた。

数年後、山下会員が死亡されてからは、ロータリー歴の長い先輩格の会員のお話をきくことなどをまじえながら、出席者一同の討論、座談が主体となって行つた。

この会の名称は誰言うもなく初めから「学習会」であつた。その後一時、この名称は固苦しいから変えようという動きがあつてさまざまな名前が出たけれども、より良い名が無くて結局「学習会」のまま今日に到つて居る次第である。

学習会は初めから情報委員会の主催でおこなわれた。私の委員長の任期が終つたあと、次の新委員長によって学習会は続けられた。そうして3年目からは学習会は理事会主催ということになり、名実共に確固たるものになった。

学習会の出席は、西クラブ会員の義務ではなく、初めから自由出席とした。少ない時は6、7人のこともあり、多い時は24、5人もあつた。また、時には鹿児島西ローターアクトの会員達も出席して花を添えることもある。

学習会は毎月第2月曜日の夕方6時半から8時半まで2時間おこなわれる。会は先ず夕食から始まる。一緒に食べながら雑談をするうちに雰囲気は和らぎ、そのまま本論に入つて行くのである。数年前からビールを出すようになったが、乾杯程度のビールでも、飲むうちに一同多弁になり、遠慮無く意見を述べ合つて勉強会の雰囲気はいよいよ燃え上がる、という次第である。

勉強の内容は、例えば前の月が「ロータリーの〇〇月間」であればそのことをテーマに勉強したり、時にはロータリーの基礎的なことについての復習であつたり、あるいは次の例会が何かのフォーラムである時はその予行演習的な勉強であつたり、また入会1～2年の会員をまとめて出席して貰つての教育的勉強であつたり、またその時の社会的要望の事柄を話題にしてロータリアンの立場から検討する、などなどである。熱のこもつた、しかも楽しい語らいの中の勉強である。何か一ついいことを知つた、大事なことをひとつ習つたという嬉しい思いで帰路につく学習会である。

このように文字通り勉強する「学習会」であるが、同時にまたこれは何よりの「親睦の会」

でもある。例会と違って2時間という充分な時間に、うちとけた雰囲気の中で、男と男が腹打ち割って遠慮無く意見を述べ合うのである。お互いによく知り合い、親しくなるのにこれ以上の会はあるまいと思う。出席を重ねるほど親睦は深まるというものである。この学習会こそまさに“Fireside Meeting”である。(今はInformal Meetingとかいう味気無い名前に変わってしまった残念であるが。)

情報委員長の司会でおこなわれるこの学習会は、年々情報委員長の顔は変わっても学習会の心は一貫して変わらず、否、年と共に学習会は充実して行って今では私達の西クラブに無くてはならない貴重な勉強の会としてすっかり定着してしまった。最近では出席者もだんだん増えて、多い時は30人を数えることもある。私ごとになるが、これまでの180回の学習会のうち私は170回出席した。それは初めに学習会を作った者としての責任感や義務感で出席に努めたのではない。一言で言えば学習会が楽しいからであった。和やかな雰囲気の中で楽しく勉強出来て親睦も深まる、という一石二鳥三鳥の学習会である。月に一度の楽しみとして出席したくなるのも無理

ないことであろう。世に“ロタキチ”(ロータリー一気狂い)という冗談の言葉があるが、私のほかに100回出席、90回出席……という“学習キチ”がぞくぞく出て来つつある。頼もしい限りである。

発足以来、3年、5年……10年とつづくうちについに15年、180回の学習会を数えるに到った。この会がこんなにつづいた要因の一つは、学習会が会員の強制出席でなく、自由出席であったということであると思う。会員の良識に従っての自由出席がこの素晴らしい結果をもたらしたものと思う次第である。

鹿児島西クラブ創立30周年の今年、くしくも学習会も発足15周年を迎えたということはまことに以て目出度い限りである。

日本中の数多いロータリークラブの中で、このような形の学習会を持ち而も15年もつづいて居るといふ例は恐らく無いであろう。

西クラブのこの学習会が、会員一同の心に秘めた誇りと地道な努力によって更に末長く続くことを心から願ってやまないものである。

現・国際奉仕委員長

23代会長 福田正臣

XXX インターアクトの歩み XXX

わが鹿児島西ロータリークラブは独自の性格と行動理念を持ったクラブとして、つとに高い評価を保ってきた。その多方面にわたる活動の中でも、ひとときわ強く意を注いできたのが青少年奉仕活動部門であると言えよう。

結成初年度から市内新聞配達少年野球大会の運営に力を添えたり、「交通安全」ポスターの図案を小学生から募集し、入選作品を印刷して配付したりした。

翌年には早くも県立鶴丸高等学校にインターアクトの設立を提唱し、10月には結成式を迎えるに至った。県下でも有数の進学校として知られる同校が奉仕活動に力強い一歩を踏み出すに

至ったのは、同校の校是が「FOR OTHERS」となっていることにもよるが、本クラブ会員の熱心な奨めと真摯な努力の賜であったことも否めない。鶴丸高校インターアクトが県下インターアクト第1号となった。

クラブ結成三年目の昭和40和9月には地区で推進してきたワンダーフォーゲル運動10周年に当たり、10年連続リーダーとして参加した鹿児島高等学校新原慶輝教諭(現・同校教頭)を3クラブ合同で表彰した。またインターアクト担当の故柴山一雄会員らは鶴丸高校インターアクトのメンバーともども寺山公園の滑掃奉仕に初めて参加した。

昭和44年には8月に鶴丸高校インターアクト3名を山形県鶴岡市に派遣、^(兄弟)姉妹クラブのメンバーや鶴岡西高等学校、鶴岡高等専門学校インターアクトとの親善交歓を図った。

そして昭和46年6月、二つ目の提唱インターアクトとして学校法人津曲学園鹿児島高等学校にインターアクトが結成され、会員27名でスタートした。先行の鶴丸高校と鹿児島高校とはお互い至近の距離に在り、日頃から生徒間の交流が行われていたので、両アクトの交流、共同活動はスムーズに展開し、年次大会への参加、交換学生との交歓、韓国研修への参加など、すべて一体となって推進された。

結成される時は華やかでも、年を追って活動が沈滞する例が多い。そういう事態を招かないよう、両校の校長、教頭、担当教諭などに異動がある時は懇談の機会を設け、ロータリークラブやインターアクトの趣旨を十分に伝え、継続、発展に遺憾無きを期した。

両校のインターアクト共に、よくスポンサークラブの意を体し、常に地区インターアクトのリーダー的存在として、クラブ間の交流ら共同活動を推進し、年次大会に於いても指導的役割を果たしてきた。私立校で異動が無いという利点の故もあって、鹿児島高校の佐藤憲一教諭(現・同校職業指導主任)は結成以来今日まで

22年の長きにわたって同校インターアクトの顧問としてのみならず、広く県下インターアクト協議会の活動をも終始陸から支えつづけてきた。

インターアクトを提唱した鶴丸、鹿児島両高校の在校生の中から毎年3名ずつに奨学金を贈る制度も設けられ、また折々に両校へ記念樹の植樹なども行われて、広く一般の教職員、生徒にもロータリークラブの存在をアピールする上で大いに寄与している。

近年、両校インターアクト生徒を中心に、ロータリアンによる職業理解のフォーラムも開かれているが、関係者の中で喜ばれ、賞賛を得ている。

故柴山一雄会員を中心に多くの熱心なメンバーがこれら強力な活動を支えてきたが、瀬戸山勝資元会員、海江田卓会員の両名は地区インターアクト委員、もしくは委員長として永年にわたり、より広い立場で貢献しつづけてきた。殊に瀬戸山委員長時代、年次大会参加の大分、熊本、宮崎、鹿児島四県の高校生男女を当クラブ会員宅を中心にホームステイさせた体験は、長く記憶に留められるであろう。

国際ロータリー第2730地区
インターアクト委員長
海江田 卓

XXX ローターアクトの歩み XXX

昭和44年10月に鹿児島、鹿児島南、鹿児島西の合同RACとして結成、その後51年6月24日鹿児島西RACとして発足した。

現在、西ローターアクトクラブの会員数は17名ですが、会員が一丸と成りクラブの運動に一生懸命です。1988年でしたか、ローターアクトの定款細則が変更になり、ローターアクトのすべての会合に、ロータリアンは出席する必要がありませんというように定款が改正された時、私は個人としては、ちょっとびっくりしました。

しかしその後岩澤光男地区委員長よりローターアクトクラブの月二回の例会のうちの一回は必ずロータリアンが出席することを要請するという話をきき、そこで半分、もとのロータリーとローターアクトの関係に成ったなと思いました。ロータリアンは出席する必要はないということは、自然にロータリーとアクトの関係は疎遠に成り、ローターアクトの育成にも問題があるなと思いました。アクトのメンバーは若者の集りです。ですので時々ロータリアンが会合に行き、彼等の

考えを聞く耳をもってほしい。又、アドバイスを
してやってほしいと思います。一人の人が多く
行くより、より多くのロータリアンにアクト
の会に出席してもらいたい。ローターアクトは
若い人達の集りです。若者の自主性を尊重しな
がら、ロータリアンの心からの話を彼等は望ん
でいるのではないのでしょうか。会員増強も、活
動もその時代にマッチした方法がある様に思
います。若者の自主性を尊重し永い目でやさしく
見守ってやりたいと思います。西ローターア
クトはこの10年間に次の様な行事を行っています。

- 1. 第10回年次大会ホスト 1982年10月
 - 1. 第12回県内合同研修会 1988年3月
 - 1. 第19回幹部研修会 1990年5月
 - 1. 第4回南分区内研修会 1992年3月
- そして今年9月に
県内合同スポーツ大会 1993年9月予定
クラブ内では次のような行事を行いました。
- 1. 10周年記念式典 1986年7月

1. 15周年記念式典 1991年6月

1. チャリティー福祉映画自主上映会
1988年1月

1. 4百会記念例会 1993年3月

それに毎月1回、西鹿児島駅前の朝滑掃と愛の
聖母園訪問等があります。

ローターアクトの吉富会長は、アクトの将来
は、ローターアクトクラブ同志のつながりだけ
でなく、他の青少年体団との連携をもつこと
により、市民の理解を得、真の意味での地域の
リーダーとしての役割をになうようになりたい、
とっています。

＜ローターアクト会員名＞

川畑直美、吉富勇一、田中 勉、辻村サナ枝、
村田龍之進、吉富佳江、福永尉治、和田克己、
唐仁原祐子、梶原 忠、張 嵐、上岡美佐代、
獅子崎直也、坂口 聡、前之園代士明、杉野
和子、森田 浩幸

元ローターアクト委員長 中 川 宏

ロータリー賞贈呈者

第18回 (昭59.3.22) ①鹿児島市宇宿町内会連
絡協議会

②鹿児島市青果仲卸組合青年部。共に永
年にわたる献血協力。

第19回 (昭60.3.28) ①岩下政廣さん (45才)
昭和43年「交通遺児を励ます会」を創設
し、今日まで献身的奉仕活動を続ける。

②山下良一さん (32才) 昭和50年以降B
BS会員として非行少年少女の更生指
導に献身的な奉仕活動を続けてきている。

第20回 (昭61.3.20) ①是枝勇夫さん (56才)
永年にわたる点訳奉仕、点字奉仕者養
成に尽力。

②濱島佐兵衛さん (86才) 80年にわたる
滑掃奉仕。

③上塘ナミさん (63才) 鹿大学内の滑掃
奉仕。

第21回 (昭62.3.19) 「グループ風」代表幸か
ほる (51才) 永年の身心障害者に対す
美容の奉仕。

第22回 (昭63.3.23) ①福崎三彦さん (63才) 警
察医としての34年間の献身的活動に対し。

②新聞少年3名、森達也君 (商工3年) 大
迫秀幸君 (吉野中3年) 一以上南日本
新聞、池田勝利君 (電子工1年) 一鹿
児島新報

第23回 (平元.3.23) ①四元矢二さん (78才)

②磯崎愛樹さん (82才)

③川井田敬二さん (75才)

④上吹越三雄さん (75才) の4名は、市
児童通学保護員制度制定以来18年間、
精励し、交通安全、事故防止に多大の
貢献をされる。

第24回 (平2.3.28) ①谷山小学校仲良し会

❖❖❖ 鹿児島西ロータリークラブ奨学金 ❖❖❖

この制度はロータリー創立75周年事業の青少年奉仕事業として、高校生を対象とし奨学金を給付し、その健全な育成に寄与することを目的としている。昭和55年4月から実施、毎年、西

クラブ・インターアクトクラブのある鶴丸高校と鹿児島高校の高校生にそれぞれ3名づつに贈られて毎年続けられている。給付金額は当初月額5,000円だったが、今は月額10,000円になっている。

❖❖❖ 物 故 会 員 ❖❖❖

創立20周年式典以後亡くなられた次の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

氏 名	逝去年月日	逝去年齢
中 村 俊 雄	昭和59年11月13日	76歳
牧 田 健 二	昭和60年12月6日	74歳
本 武 勝 美	昭和61年2月22日	51歳
久 保 政 次	昭和62年10月12日	61歳
久保田 彦 穂	昭和62年12月27日	82歳
海老原 利 則	平成2年5月9日	76歳
櫻 美 四 郎	平成2年7月21日	88歳
土 橋 滋	平成3年1月14日	54歳
内 山 光 男	平成5年2月28日	52歳

❖❖❖ チャーターメンバー ❖❖❖

安 楽 一 郎	福 井 浩	船 木 潔	堀 俊 一	犬 伏 康 夫
岩 元 健 吉	岩 元 正 二	河 井 時 義	川 村 洋	小 山 幸 義
倉 園 清 市	黒 木 長 太郎	牧 田 健 二	松 元 明 人	大 小 田 友 一 丸
大 山 実 助	西 郷 隆 永	櫻 美 四 郎	柴 山 一 雄	島 津 忠 丸
出 原 誠 助	塘 一 郎	土 橋 英 夫	米 倉 秀 雄	(計24名)

XXX マルチプル・フェロー XXX
XXX XXX

故(柴山 一雄) 池口 忠観 以上2名

XXX ポールハリス・フェロー XXX
XXX XXX

故(塘 一郎) 池田 廣 柿市 高重 故(柴山 一雄) (藤安 辰造)
池口 忠観 故(牧田 健二) (河井 時義) 川村 洋 故(土橋 滋)
福田 敏之 川上 鐵太郎 川田 恵一 徳澤 紀生 故(海老原 利則)
有馬 志享 小園 正人 岩元 紀彦 村田 和雄 高井 敏治
木治屋 克己 上原 満 片平 可也 岩元 基 竹下 洋
林 基 為 外西 寿彦 高山 義則 岩男 秀彦 安田 正治
玉川 哲生 坂元 明雄 中村 一雄 (以上33名)

XXX ポールハリス準フェロー XXX
XXX XXX

故(桜美 四郎) 故(岩元 健吉) (岩元 正二) 故(岡山 栄) (池田 稔)
故(永井 利承) 浜田 馨 中村 善治 古木 圭介 光吉 正昭
桜美 義明 故(内山 光男) 太原 春雄 山下 皓三 前田 樹一郎
三反田 藤男 竹下 威 榎田 浩典 須田 正己 江夏 洋
柴山 一清 久野 洋一 崎元 行範 (以上23名)

XXX 30周年記念実行委員会組織 XXX
XXX XXX

- ◎委員長 岩元 紀彦 (会長)
- 副委員長 小園 正人・岩男 秀彦 (副会長)
- 〔総務委員会〕
 - ◎委員長 水淵 清治
 - 副委員長 桜美 義明・玉川 哲生 (幹事)・榎田 浩典
(委員) 出席、職業分類、会員選考、会員増強、会計
- 〔式典祝賀委員会〕
 - ◎委員長 小山 幸義
 - 副委員長 古木 圭介・佐伯 寿郎 (副幹事)
(委員) 親睦、青少年奉仕、国際奉仕、SAA副SAA
- 〔記念行事委員会〕
 - ◎委員長 海江田 卓
 - 副委員長 前田 樹一郎、永松 実夫
(委員) プログラム、職業奉仕、社会奉仕、ロータリー財団
- 〔記念誌委員会〕
 - ◎委員長 石神 兼康
 - 副委員長 崎元 行範
(委員) 広報、会報、雑誌、ロータリー情報

来賓ご芳名

鹿児島県知事	土屋佳照殿	鶴岡RC副幹事	秋野昭三殿
鹿児島市市長	赤崎義則殿	〃 夫人	順子殿
		〃	富田利信殿
第2730地区ガバナー	本坊蔵吉殿	〃 夫人	洋子殿
		〃 訪問特別委員長	斎藤昭殿
パストガバナー	大津篤造殿	〃 夫人	和殿
〃	井上和人殿	〃 会長エレクト	松田士郎殿
〃	岩澤光男殿	〃	石川寿男殿
〃 夫人	照子殿	〃	高山良雄殿
〃	岡村俊一殿	〃	秋野忠殿
〃 夫人	喜代子殿	〃	日向一男殿
〃	今林重夫殿	〃 交換学生	サラ・グリーンパーク殿
〃 夫人	サヤ子殿	代理出納長	松田史郎殿
鶴岡RC会長	迎田稔殿	南日本新聞編集局長	大冢純也殿
〃 夫人	恵美子殿	ロータリー賞受賞 さわやか会代表	大竹山亘子殿
〃 幹事	碓氷節雄殿	〃	有馬文子殿
〃	佐藤昇殿	鹿児島県立図書館長	児島正憲殿
〃 夫人	登久子殿	加治木RC会長エレクト	美坂正幸殿
〃	佐藤忠殿	〃 幹事エレクト	安滴良明殿
〃 夫人	清子殿	加世田RC会長	溝神豊殿
〃	藤川享胤殿	〃 幹事	春成文夫殿
〃	加藤恒介殿	鹿児島RC会長	種子田真殿
〃 夫人	節子殿	〃 幹事	久永泰殿
〃	佐藤元伸殿	南RC会長	中園雅好殿
〃 夫人	康江殿	〃 幹事	諏訪健祐殿
〃	三浦恒祺殿	中央RC会長	光安善雄殿
〃 夫人	尚子殿	〃 幹事	折田雄一殿
〃 副幹事	大川孝殿	東南RC会長	坂口善一郎殿
〃 夫人	米子殿	〃	吉盛正春殿

西南RC会長

〃 幹事

東RC会長

〃 幹事

北RC会長

〃 幹事

城西RC会長

〃 幹事

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

竹之内 忠 廣 殿

吉 田 恒 夫 殿

四 元 時 夫 殿

竹 下 忠 彦 殿

近 藤 健 殿

七 搦 貞 光 殿

木 元 信 殿

寺 尾 政一郎 殿

有 村 和 久 殿

橋 本 博 臣 殿

濱 田 紘 一 殿

畠 田 実 殿

堀 昭 雄 殿

濱 田 英 俊 殿

石 原 伸 郎 殿

神 野 昭 殿

木 脇 祐 二 殿

小 園 弘 巳 殿

小 牧 二 郎 殿

川 崎 暢 義 殿

三 木 靖 殿

永 田 実 秋 殿

野々山 妥 弘 殿

興 津 丈 秧 殿

小田原 良 治 殿

迫 貞 義 殿

佐々木 博 殿

寺 田 洋 一 殿

床 次 恵 殿

種子島 登 殿

城西RC

〃

〃

〃

〃

〃

物故会員夫人

〃

第2730地区ローターアクトクラブ
鹿児島県南分区代理

鹿児島西ローターアクトクラブ会長

鹿児島大学助教授

鹿児島西RC元会員

〃

〃

〃

〃

〃

〃

ピアノ伴奏

内 倉 厚 弘 殿

矢 野 紀 幸 殿

納 利 一 殿

迫 田 修 殿

益 山 彰 殿

山 下 良 一 殿

久 保 郁 代 殿

土 橋 苑 子 殿

張 嵐 殿

吉 富 勇 一 殿

鎌 田 範 政 殿

藤 安 辰 造 殿

川 畑 正 美 殿

前 田 好 文 殿

福 満 武 雄 殿

二階堂 正 明 殿

瀬戸山 勝 資 殿

大 庭 昇 殿

有 馬 志 享 殿

創立前後の思い出

チャーターメンバー 川 村 洋

30年昔のことで大分忘れてしまいましたが、未だに割合、記憶に残っている事があります。

先ず創立の経過について

昭和37年の末頃でしたが、或る日、山形屋の社長室に呼ばれ、当時の岩元修一社長から桜美四郎さん（故人、日本ガス社長、桜美義明会員の父君）を紹介され、今度鹿児島RCを、親クラブとして第3のRCを結成することになり、桜美さんを中心として準備活動が始まるので、お手伝いするよう命ぜられました。

当時RCについては、例会場が山形屋の社交室にあり、会長、社長、副社長も参加している市内知名士の昼食会があること位の知識しかありませんでしたので当惑しましたが、一応お引受け致しまして結成準備に入りました。

先ず第一が会員の選考でしたが、桜美さんは折角の新クラブ結成だから親クラブに劣らぬ質の高いクラブを目標にして、拙速を避け、時間をかけて、じっくり人物本位で選考する方針を宣言されました。

不案内な私は、大したお手伝いも出来ぬままに、桜美さんは、時々土橋英夫さんとも相談されながら、殆んど独りで奔走されたようです。

会員選考が、かなり厳しかったので、一部に不満があったことも聞きました。

創立前後の手続きや、その他の準備には親クラブの事務局（佐々木申吉、浜島晴江、島津重子）の御3人に大変お世話になりました。

さて、鹿児島RCから桜美四郎、土橋英夫、岩元健吉さんが移籍され、新会員21名の計24名で、主に甲突川の西岸地域を区域とする西RCが、事務所、例会場を鶴鳴館（小山幸義会員経営）として昭和38年（1963年）3月23日にスタ

ート致しました。例会日は、毎週木曜日12時半開会でした。初代会長に桜美四郎、私が幹事に選任されましたが、西も東もわからぬ幹事と新会員の集まりでしたので桜美会長も、心配されましたが、私共も苦勞しました。幸いに、親クラブに懇請して島津重子さんを事務局に迎えることが出来て百万の味方を得た感じでした。ベテランだけに事務関係は、当初は、殆んどすべてを任せっきりでしたが、テキパキ処理してもらって大助かりでした。心から感謝しています。

第1回の家族会が、5月に桜島のハマチ養殖場で開かれ、殆んど全員の家族が出席、57名で家族ぐるみの一体感がぐっと深まったように思われました。

創立当初は、1年生だけに割合勉強し、出席も100%の例会が多く、その後10年間位は、地区大会で九州地区の出席優秀クラブの表彰を受けました。

例会の雰囲気もよく、料理も好評で、その上都心のホテルで便利なため、ビジターも他クラブの人が驚く程、多数でした。

炉辺会合も、当初各委員会毎に各家庭で持廻りで実施しましたが、家族により、サービスの上下が話題になるのは好ましくないとのことで、結局ホテル等で実施することになりました。

11月20日、山形屋5階ホールで、チャーター伝達式が行なわれました。一般には一年位かかるとのことでしたが、案外早く実現しました。準備も大変でしたが、出席者314名という大盛会で全員感激した事は、今でも忘れません。

30周年に寄せて

チャーターメンバー 小 山 幸 義

創立当時30歳で入会させて戴き、長い間、最若輩の席にあった小生も、30年の歳月は夢の如くで、既に還暦を過ぎる齡となりました。その

間で最大の印象事は、個人的な事とからんで、大変恐縮乍ら、創立以来ずっと例会場として御利用賜わった弊館閉鎖に伴う、会場移転の問題です。平成元年1月より新会場という、会期半ば、且つ年末年始を控えた時期で、当時の三角会長、古木幹事には改めて深謝する次第です。

さて、創立以来当クラブは、一業種一会員の原則にも拘らず、どういう訳か、医者と学者の両先生が多かった様です。その故か、ガバナーの公式訪問時のコメント、又は他クラブ会員のメーカー等等の話の中に、西クラブは、アカデミック且つソフイステイケートされたクラブであるという評を、良く聴かされたものです。

若輩時の私等は、いささかの固苦しさを憶えぬでもありませんでしたが、今は懐かしき思い出です。市内クラブも9RCとなり、各クラブの特色も余り感じられない昨今です。

我が西クラブのかつての極だった特色を、も一度再認識してみたいものです。

毎年毎年のクラブ活動を悠久の流れとして、次なる40周年、50周年に向けて、会員一同、健康に留意して頑張らしましょう。

鶴岡との兄弟RCの経緯と意味

— 創立30年記念式典に思う —

鮫 島 志芽太

天に星 地に花 人に心 世に道
星花ありて 山野、美を成す
道心ありて 生、安きなり
されど天地人道 時に乱曲あり
革め正さずんば あらず
明治維新の戦いも それなりや

されば維新なりて 武士(身分)も減
びぬ

されど土道の「美と義」は 擦として
敵対の薩摩と出羽荘内に 咲き残れり
南洲の敬天愛人は 敗戦荘内を救い
臥牛の「南洲翁遺訓」は 薩摩の誉を
伝う

以来、世界大戦を経て 変遷八十八星霜
昭和40年5月 鹿児島西、鶴岡西ロータ
リーに

兄弟盟約成りて 「道の交わり」生まれ
り

これ南洲、臥牛らの 義道の歴史に学ぶ
もの

「徳は孤ならず」その道統の復活は 新
時代の魁となる

昭和44年11月 鹿児島、鶴岡両市の兄弟
盟約成り

また相前後して小、中学校 諸団体の兄
弟盟約続けり

かくて年々歳々 青少年、訓導らの交流
研鑽進む

嗚呼 人世変遷常なく 心を磨き道を立
て信を培うほかなし

易経に曰く 「学道説(悦)楽の間、吉
人生ず」と

まことに 吉運は信義の間に生ずるなり
ロータリーの道も また同じなり

昭和37年6月、私は山形新聞社と山形放送を
見学、さらに鶴岡市を訪ねた。当時、私は南日
本新聞社の編集局長をつとめていた。

「山形まで行くなら、ぜひ、鶴岡・荘内を見
て来やんせ」

と、勝日清鹿児島市長に強くすすめられてい
た。

勝日さんは昭和2年、西郷南洲没後50年記念
祭を行うに当り、南洲翁の「書」を鶴岡に借り
出しに行った。南洲翁の直筆が多数、保存され
ているところは、旧荘内藩の鶴岡、酒田地方で
ある。このことは南洲翁と旧荘内藩士の親交を
物語るものである。勝日さんは鶴岡に行って、
まるで西郷隆盛ご本人のように、最高の礼をも
って待遇された。これはあとで知ったことだが、
市長(当時は助役)だからではない。鶴岡では

鹿児島から来たという人に対して、誰にでも、恩人に接するように敬礼をもって遇してくれるのである。つまり、鶴岡には儒教という「道」が生き残っているのだ。南洲と旧荘内藩士は、ただの親交ではなく「学道説楽」の吉人（君子）の交わりだったのである。

私は鶴岡を訪ねて、このことを知り、勝目さんの「すすめ」の意味を、なるほどとわかったのである。盟約後、両市は毎年、中学生10数名の相互訪問研修を行っているが、鹿児島から行った中学生は、わずか2日の民泊で、精神革命にひとしい感銘をもって帰っている。「礼」を以って尊敬を受ける自分が、果して、それに値するか、南洲翁が何をしたのかなどを学び、徳行が人の心を打って、形に出ると「礼」になるという関係を感じるのである。

この恩愛の情を、自分たちの親子兄弟の日常にあてはめると、自分たちの家庭に「礼」「節」があるか、これらの意味を考えるようになる。

兄弟盟約は、そうした「人間の道」を、わずかでも知ってもらふ機縁になっているわけである。

ロータリーの例会や諸会合が「ロータリーを広め、深めるチャンスになる」として、出席を重視していることと、原理は同じである。

敬天愛人は生きている

さて、私は最初の鶴岡訪問の時（前記）、犬塚又太郎致道博物館長、大瀬欽哉市史編纂室長、山田悌介松ヶ岡開墾場本陣幹事の諸氏に会って、南洲翁と荘内の関係取材した。犬塚さんと会った日は、たまたま鶴岡ロータリークラブの例会で、犬塚さんが卓話をする日だった。

「最近、ロータリーの人たちが東京の会合にいくと、西郷さんと鶴岡の関係を聞かれるので、勉強したいというので、話しに行きます。あなたも、いっしょにロータリーの例会に行きましょう」

と、強く誘われて、5分間ぐらい西郷さんの話しをした。これが、私と鶴岡RCとの初の御

縁である。

昭和37年6月16日付の南日本新聞の朝刊に「南洲翁と庄内」という私の鶴岡訪問記事（上下）が載り、この記事が当時の山形新聞にも転載された。鶴岡（荘内）地方で大きな反響をよんだという知らせがあった。この記事の中で私は両市の「兄弟都市盟約」を提唱した。

翌昭和38年、鶴岡市から犬塚致道博物館長を団長とする「大西郷の遺徳を鹿児島に訪ねる会」の一行40余名が来鹿、この一行が帰鶴して「荘内鹿児島会」を結成した。翌39年8月、私たちは「荘内に南洲翁の遺風を訪ねる会」（61名）をつくって、鶴岡地方を訪問、前年の「大西郷の遺徳を鹿児島に訪ねる会」の返礼の一端にもした。この61名が中心になって「鹿児島庄内会」を結成した。これらが、きっかけとなって、両市諸関係団体の交流が盛り上っていった。

昭和38年、鹿児島西RCが発足、私も参加した。この翌年から私は毎年のごとく鶴岡を訪問した。鶴岡RC関係者と「兄弟RC」の盟約の話し合いをすすめた。鶴岡RCも賛同され、諸準備期間を経て、昭和40年5月9日、磯・重富荘で「兄弟クラブ盟約締結式並びに交歓祝賀会」を開いた。鶴岡RCから斎藤栄作会長、小花理事ら会員5名、家族2名、鹿児島西RCから土橋英夫第二代会長ら会員33名、家族34名が出席した。同40年10月20日、鹿児島西RCから塘一郎第三代会長ら会員4名、家族1名が鶴岡クラブを親善訪問、友愛を深めた。以来、節目節目において、会員・家族間あるいはインターアクト間の交流が続いた。

平成元年4月22日、4年先輩の鶴岡RCの30周年記念式典と祝賀会が行われた。鹿児島西RCから岩元基幹事、中村善治前会長御夫妻、中尾洋、玉川哲生、岩田泰一、小生の4会員と計7人が参加、厚い歓待をうけた。特に記念事業の「敬天愛人」の見事な石碑の除幕式は感銘深いものだった。私は鶴岡RCの30周年記念事業委員長・三井徹先生の御懇篤なすすめにより、記念講演「敬天愛人を実践した南洲翁と荘内高士たち」について話しをさせてもらい、300名

の御来講を得て、望外の光栄に浴した。これらの模様は、平成元年5月18日(木)の週報「鶴岡RC30周年式典に参加して」と、同5月1日付の南日本新聞朝刊「永遠の道を示す——敬天愛人碑に思う」という記事で詳しく報告した。後年、何らかの参考になると信ずる。

平成5年3月24日(水)の鹿児島西RC30周年記念式典と祝賀会には、鶴岡RCから迎田稔会長、碓氷節雄幹事に会員18名、夫人、交換学生を含む計30人が参加、交歓を尽した。

私は永年の交流の間、いつも鶴岡RC側の方が、鹿児島西RC側より、質・量(形)ともに、誠意がこもっているように感ぜられ、恥ずかしい思いをしていた。

明治8年、南洲翁が鹿児島に訪ねて来た菅実秀(臥牛)ら8名の荘内藩士を自宅に招いて会食、その席で、「菅氏を送る」という自作の漢詩を贈っている。その中でやはり、南洲翁は荘内の士に「慚づかしい」と言っている。

相逢う夢の如く 又雲の如し

飛び去り飛び来って 悲しみ且つ欣ぶ

一諾半銭 季子に慚ぶ

昼情夜思 君を忘れず

(ご要望の荘内訪問の約束を、まだ果せず、昔、中国の漢の高祖を助けた賢人・季布先生の一諾は千金に値するといわれたが、自分の一諾は一銭の半分にも値せず、恥ずかしいことです。だが、貴男のことは決して忘れておりませんよ)

しかし、こんどの30年記念の鹿児島西RC側は、誠意を示したのではないかと思う。25日の鶴岡RCの市内、桜島、知覧の見物バスには、会長、幹事のご指示で、小生や岩田、小山、玉川さんらが説明役でバスに乗り、指宿・白水館の夕食会には、岩元会長、岩男副会長、玉川幹事ほか数名の会員が出席して大いに盛り上げ、鶴岡RCの皆さんも喜んでおられた。迎田会長からは早速、御礼状と記念写真を頂き、

「今回の鹿児島訪問で多くのことを学び、多くの友情を持ち得ました」と、書いてこられた。

「兄弟クラブ」とは何ぞや。

結局、信義の社会をつくるためのものだといえる。われらは信頼できる人を何人持っているか、胸に手をあてて見なければならぬ。人間の本性は利己で、自己中心である。この欠陥を補うには兄弟となりて「信義の道」を立てるほかない。

「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草履を作る人」……この宿命の世が成り立って来たのは信頼と思いやりがあったからである。

ロータリーは国際ロータリーなどの指導を待つまでもなく、形式に流れず、地域において「信義」の実践の輪を広げることにつとめたいものである。

人の存在は動物と超人に架けられた橋である。

人は途中者であり(世界の)目的ではない

——ニーチェ

(H5.3.30記)

鶴岡市見聞記

川田 恵一

私は平成2年10月18日から10月20日まで鶴岡市訪問親善使節団の一員として鶴岡市に行き参りました。と申しますのは名誉会員であります鮫島さんより鶴岡ロータリークラブが昨年30周年記念をやったので、之を見ることは鹿児島西クラブの30周年記念を挙げる際の何かの参考になるのではないかと強くすすめられた事にもよります。

赤崎鹿児島市長を団長とし、青少年団体リーダー国内研修生を含む30名。ロータリー関係では、鹿児島庄内会副会長鮫島志芽太氏(西クラブ)商工会議所副会長頭大西洋逸氏(鹿児島クラブ)島津家より島津修久氏(中央クラブ)であり、私はロータリークラブ会長という事で参加しました。10月19日鶴岡市長表敬訪問の後、午前9時50分より、市役所隣旧藩校致道館の前、タブの大樹の下、鶴岡ロータリークラブ主催の敬天愛人の碑前祭が始まりました。

集った者は鶴岡市長外県議団・市議団・鶴岡ロータリークラブの各会員並びに赤崎鹿児島市長以下の鶴岡市訪問親善使節団一行でした。

「敬天愛人」碑建立の経緯について

鶴岡ロータリークラブが創立30周年を迎えるに当り、記念事業を何にするかが数年前からの懸案でしたが、鶴岡にあるべくしてなかったものを追求してゆくうち、自然に盛り上って来たのが、南洲翁の顕彰碑を建てようという総意でした。平成元年4月22日、創立30周年記念式典に先立ち、記念事業の一環として「敬天愛人」の石碑を建立、盛大にその除幕式を行いました。そして記念式典の後に「敬天愛人を実践した南洲翁と庄内高士」と題し鮫島志芽太氏の記念講演があり、人々に多大の感銘を与え、当日は南洲一色に塗りつぶされましたという事が書かれています。

「添碑々文」

明治戊辰の後に最後まで反撃した庄内藩が、大勢を察して降伏謝罪の礼を執った時、戦況視察に來り合わせた南洲西郷隆盛翁は公明正大寛仁、正に大師たるの処分を成された。やがて庄内では翁を師とも仰ぎ兄とも慕うに到った。天を敬し、人を愛すは翁自らの志操とする所、そして人への教訓ともする所であった。

選文 犬塚又太郎

書 酒井 忠明

私は鮫島名譽会員より当時の鶴岡ロータリークラブの会長佐藤昇氏、会員の三井徹・三矢正修・市川輝雄・庄司嘉男各氏に紹介されました。

夜18時から始まった兄弟都市盟約20周年記念式典に於ても、私のテーブルの周りは鶴岡ロータリークラブの各位の席が設けてありました。

席上あの様な立派な記念事業が出来たのは要点は何でしたかと尋ねました所

(1)意欲が先ず第一である。

土地は酒井の殿様よりの借地である。石は会員の店より格安に譲受けたものであり、記念碑は会員の建築業者が利益を度外視して造ったものである。

(2)資金は数年前から積立てたものである。

と言うことでした。

鹿児島西クラブで30周年記念祝賀会を開催される時には必ず大挙して行きますと固く約束して、庄司氏以外は初対面でしたが、和気藹々の内に会を終りました。以上

サンタローザ・サンライズ・ロータリークラブとの姉妹盟約

古木 圭介

平成元年4月28日、米国カリフォルニア州サンタローザ市のシエラトンホテルの一室で鹿児島西ロータリークラブとサンタローザ・サンライズ・ロータリークラブの姉妹盟約が締結された。

両クラブの盟約締結については深い歴史的背景がある。

今から約130年ほど前の1865年の幕末までさかのぼる。当時薩摩藩は幕府の了解なしに英国に留学生15名を送り出した。明治維新の3年まえである。

その留学生の中に最年少で13才の長澤鼎(本名を磯長彦助)という少年がいた。彼は英国で2年ほど教育を受けたのちキリスト教のグループとともに米国に渡った。

そこで彼はコーネル大学で農業を学び、その後カリフォルニアに移り住みサンタローザで開拓農民として葡萄の栽培に従事した。

そしてワインの醸造を手がけ次第にカリフォルニアを代表する大産業に発展をしていった。それが現在世界に誇るカリフォルニアワインになったのである。

10年ほど前サンタローザからひと組のご夫妻が鹿児島にやってきた。その折、わたしもお2人に会う機会を得た。

ご婦人の名はファーン・ハージャーという。この婦人が「鹿児島友好協会」の会長である。

この協会は長澤鼎がカリフォルニアに遺した偉大な業績を讃えてできたものだという。私たちはこの話を聞いて驚いた。私たち鹿児島の者でさえ長澤鼎のことについて知っている者は少な

いというのに、米国人が幕末の歴史を大切にしているのに敬服すると同時に恥ずかしい思いであった。

そこで、鹿児島でも「サンタローザ友好協会」を設立することになった。

これらの両協会は 130年前の歴史にちなんで相互に青少年の交換プログラムを実施することとなった。

この計画を実施するにあたりサンタローザにサンライズ・ロータリークラブが設立されこのプログラムをサポートすることとなった。

鹿児島でも鹿児島西ロータリークラブがこの歴史的な背景にもとずき、青少年育成と国際奉仕の一環としてこの事業の推進に乗り出すことになった。

そこで両ロータリークラブは姉妹盟約を締結する運びとなったのである。

盟約式はサンタローザで行われることとなり、鹿児島西ロータリークラブ一行12名が米国へ飛び立った。(外西寿彦、同夫人、三角桂次郎、同夫人、小園正人、同夫人、同令嬢、岩元基、同夫人、木治屋克己、古木圭介、三反田藤男)一行はサンフランシスコに一泊したのちバスで約2時間のサンタローザに到着。

ホテルにはサンライズロータリークラブのメンバーが多数出迎えてくれた。

その夜、シェラトンホテルの「ナガサワ・ルーム」において調印式と記念パーティーが開催された。

調印は外西会長とロバート・ダン会長が互いに調印書に署名し、固い握手をかわしてめでたく終了した。

バナーの交換や記念品の交換が行われ、地区ガバナーの祝辞、そして乾杯と続いた。

パーティーでは両クラブのメンバーは今日知りあつたとは思えないほど打ち解けて和やかな雰囲気でも語り合っていた。

パーティーも盛り上がりついでところで、日本側を代表して外西会長の「能」が披露された。始まる前に英語で「能」について詳しく説明があった。

優雅な舞に全員シーンとして見とれている。

日本人にとっても「能」を観賞する機会はめったにないだけに、私たちがもじっと見つめていた。舞が終わると全員から割れんばかりの大拍手が起こった。

アメリカ側からは高校生の合唱隊が美しいコーラスを聞かせてくれた。

思い出に残る楽しい一夜であった。

翌日からは、彼らの用意してくれた数々の催し物に参加した。希望者による親睦ゴルフや気球に乗せてもらったのも貴重な経験であった。

そして、サヨナラ・パーティーは会員の自宅に招かれホームパーティーであった。リラックスした雰囲気の大変楽しい会であった。

会の締めくくりは木治屋克己会員による「三本締め」であった。これが大好評で、その後サンタローザに行ったときもアメリカ人から請求されたほどである。

数々の思い出を胸に一行はサンタローザを後にした。百年の年月を越えて両クラブの友好関係がスタートしたのである。

最近では青少年交換プログラムに加え、両クラブ共同プロジェクトが昨年よりスタートした。それは、南米チリの貧しい山村コハエク村の小学校に教材を送る計画である。

毎年両クラブが千ドルづつ出し合い、これに国際ロータリーの援助金を加えて、向こう5年間継続することになったのである。

今年の鹿児島西ロータリークラブ30周年記念式典には残念ながらサンタローザから来ることはできなかったが、来年は是非鹿児島を訪れたいという会長よりの手紙が届いた。

さて、今までの実績であるが、隔年インターアクトのメンバーをサンタローザへ派遣している。また、サンタローザから訪れる引率者と学生のホームステイ受入れも行ってきた。

外西会員がビッキーさん(女性のロータリアン)を、三角会員宅に学生を、野添会員宅にランパートさん(ロータリアン)を、古木会員がファンデアフォルストさん(ロータリアン)を受け入れた。

平成4年4月、岩元会長を団長に再びサンタローザを親善訪問したのも大変有意であった。この時も第1回の訪問と同様大歓迎を受けたことは言うまでもない。

平成5年の夏には再びサンタローザから引率者2名と学生15名が鹿児島にやってくる。両クラブの友好がますます深まり意義あるロータリーの活動が期待できそうである。

10年の節目

高井敏治

30年前の昭和38年、1963年に鹿児島西ロータリークラブが誕生した。その10年前に鹿児島クラブが出来た。当時の同クラブの会員は、日中戦争で召集されて中国大陸で戦い、帰国しては男手の少ない空襲下の鹿児島を守り、戦後の焼野ヶ原の何も無い状態で働きぬいた方が多かった。鹿児島のリーダーが揃っていた。

その10年前、昭和18年9月、私は七高を半年繰上げて卒業させられた。大学に入ってすぐ兵隊にとられた。心ならずも半年のうちに住居と制服が3度も変わったが、自分の思うにまかせぬ戦時下の日本であった。勝ち戦さから負け戦さに転じ、行く先はどうなるのかと案じられた。

昭和8年の前後は軍部が中国で事を起しはじめたが、人々は穏やかに暮らしていた。物価の変動はなく、そば5銭、市電6銭、子供の丸刈り10銭が長く続いた。

その又10年前、1923年、大正12年は関東大震災の年である。大正9年に東京クラブが出来ていたので、世界中のロータリークラブから東京市（都ではない）に莫大な見舞金や援助がよせられた。そのためロータリークラブが一躍有名になったという。この年に私は出生した。

10年1昔というが、10年ごとの節目をふりかえってみると、その変貌に驚く。では10年後はどうなっているであろうか、私はその予測を書きとめておこう。きっと外れるにちがいない。だが一つだけ——平成15年3月某日、西クラブ創立40周年記念式典は、多くの人が集まって盛

大に挙行されることはまちがいない。

記念事業「写真集」に寄せて

事業委員長 海江田 卓

記念事業を何にするかについては、二十周年の折の県立図書館への図書寄贈などの先例を参考にしながら、各委員会等から多くの提案が寄せられた。

予算規模を勘案しながら検討が進められ、最終的には岩元会長提案の写真集作製の線でもまとまった。

「当クラブが三十周年を迎える今日の鹿児島市の様相を写真で記録に留め、四十周年、五十周年までにいかように発展・変貌を遂げるか、比較対象するよすがにしたい」

これが岩元会長の発想であった。予算的にはかなり無理をしなければならなかったが、関係者の熱意と協力で実施が決まった。

早速新聞社の専門家に依頼し、四季を通じて広範に市内の代表的なポイントをフィルムに収める作業が始まった。空中撮影や夜間撮影を中心に、プロらしい感覚と技術で、次々とすぐれた作品が重ねられた。

一方、会員それぞれの視角からこの地域もぜひ取り上げておきたい、この風物も記録しておきたいという意見が寄せられ、それらに応じられるような写真も集められた。発案者の岩元会長は、特に海側から見た鹿児島のパノラマを要望された。市の新しい発展の場として、いわゆるシー・フロントの重要性に着目されたのである。

印刷・製本等については、プロ側からの希望もあったが、協議の結果、会員の崎元君が経営するアジア印刷にすべてを委託することに決した。

集められた多くの写真は、永松副委員長を中心に、印刷の立場から崎元会員も加わって、選定の作業が進められた。一冊をどのように構成し、写真をどのような順序で並べて行くか、全体的な構想と細部にわたる配慮を突き合わせな

がら綿密に進められた。本来の業務が多忙な方たちばかりで、作業は深夜に及ぶこともしばしばであった。

永松会員は装丁から表紙、題字、一頁一頁の構成や写真の配置、文字や線のカラー・コーディネートに至るまで、デザイン万般を引き受けられ、熱心に担当された。すばらしい専門家の力を発揮され、「職業奉仕」が「クラブ奉仕」に活かされる最大の好例となった。製版、校正、印刷、製本に至る複雑な行程を一元的に引き受けられ、努力された崎元会員の熱意も並々ならぬものであった。異なる写真の質を調整したり、製版を何度もやり直したり、専門家でないかわからない御苦労が多かったようである。何しろ日時の制約と予算上の枠が厳しく、当事者を苦しめ悩ませたのではないかと懸念している。

タイトルは簡にして要を得ることを主眼に、広告のコピーでもひねるような感じで小生が担

当した。

この種の事業の常として、出来上がるまでは多くの曲折を経なければならなかった。しかし、ずっしりと重い出来上がった一冊の「鹿児島見たまま」を手にする時、会員の力を寄せ合って成ったいわば手づくりの記念事業を自讃したい気持ちに馳られる。

岩元会長のアイディアもユニークだった。構成やデザイン、印刷に人を得られたことも幸いだった。鹿児島西クラブが歩んできた道、持っている雰囲気、それらにふさわしい企画であり、産物であったと言える。

それぞれの視点で意見を寄せられ、知恵を貸して下さった会員諸氏に心からなる感謝と尊敬の念を捧げる。

四十周年、五十周年の折にはさらにすばらしい収穫が上げられることを祈念して止まない。

第 3 部

その後の10年の歩み

第 21 年 (1983~84)

昭和58年7月~59年6月



会 長
高 井 敏 治

〈R I 会長ターゲット〉

みんなにロータリーを
みんなに奉仕を



幹 事
木 治 屋 克 己

R I 会長 ウイリアム・E・スケルトン (米国)
ガバナー 丸 田 美 徳 (都城)
分区代理 菊 地 和 則 (阿久根)

役員・理事

会 長	高 井 敏 治	幹 事	木 治 屋 克 己
副会長	池 田 広	副幹事	佐 伯 寿 郎
理 事	原 三 郎	会 計	宇 治 野 純 章
〃	太 原 春 雄	S A A	中 尾 洋
〃	安 田 正 治	副SAA	馬 場 康 二 久
〃	下 田 平 哲 夫	〃	神 野 靖 久

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

出席 奨励	◎瀬戸山勝資	○平岡 禎吉	外西 寿彦	藤安 辰造	海老原利則
職業 分類	◎新福 栄熊	○岡元健一郎	中村 俊雄	川田 恵一	内山 光男
会員 選考	◎河井 時義	○岩元 紀彦	石神 兼康		
会員 増強	◎田平 礼章	○川村 洋	柿市 高重	岩男 秀彦	吉留 益
プログラム	◎川上鐵太郎	○小園 正人	玉川 哲生	小山 幸義	藤都喜エ門
広 報	◎二階堂正明	○三角桂次郎	久保田彦穂	林 宏	
親 睦	◎本武 勝美	○徳沢 紀生	浜田 馨	渡辺 忠	安楽紘一郎
	中尾 正昭	光吉 正昭			
ロータリー情報	◎土橋 滋	○島津 忠丸	川畑 正美	福満 武雄	海江田 卓
会報・雑誌	◎高橋 司	○徳田 基	岩元 基	桜美 義明	
職業 奉仕	◎原 三郎	○中村 一男	鮫島志芽太	池口 恵親	市村 博

社会奉仕	◎太原 春雄	○前田 好文	水淵 清治	永松 実夫	東郷 初夫
青少年奉仕	◎下田平哲夫	○上原 満	新川 靖博	田原迫卓視	大庭 昇
インターアクト	◎江夏 洋	○中村 善治	前田 隆造	岩田 泰一	佐久間佳久
ローターアクト	◎渡部 信	○富田 豊喜	林 其為	村田 和雄	徳永新一郎
国際奉仕	◎安田 正治	○福田 正臣	山下 皓三	古木 圭介	田中 克佳
ロータリー財団	◎牧田 健二	○福田 敏之	岡山 唯一	久保 政次	

主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 7. 7 | クラブ協議会（6, 18, 19都城市で開催の地区協議会出席報告） | 12. 22 | 新人会員卓話（神野靖久会員） |
| 7. 14 | クラブフォーラム（R・I会長テーマについて） | 12. 29 | さつまの中の国際文化（鹿児島大学助教授 原口 泉殿） |
| 7. 21 | ホテルよもやま話（城山観光ホテルマネージャー島影清司殿） | 1. 5 | 動物たち（棕 鳩十会員） |
| 7. 28 | クラブ協議会（決算報告・予算審議・活動方針発表） | 1. 12 | 菊作り余話（島津観光元役員 安藤泰殿） |
| 8. 4 | 新人会員卓話（馬場康二会員） | 1. 19 | クラブ協議会（上期報告, 下期計画発表） |
| 8. 11 | 童戯の生態学（村田 熙殿） | 1. 26 | 今日の高校教育の問題点（県立鶴丸高校校長 下野 亨殿） |
| 8. 18 | 洋食雑話（城山観光ホテル洋食調理長加藤 賢一殿） | 2. 2 | 生体内への人工物の応用（谷口良康会員） |
| 8. 25 | ファイヤ・サイド・ミーティング（於鶴鳴館） | 2. 9 | クラブ協議会（I・G・Fについて） |
| 9. 1 | クラブフォーラム（青少年奉仕委員会） | 2. 16 | クラブ協議会（I・G・Fについて） |
| 9. 8 | クラブ協議会（公式訪問をひかえて） | 2. 19 | 西クラブホストによるR・I第273地区県北部、西部分区I・G・F開催 |
| 9. 22 | ガバナー公式訪問 | 2. 23 | クラブフォーラム（国際奉仕委員会） |
| 9. 29 | 観月家族会（於城山観光ホテル, 参加者 会員57名, 家族43名, 留学生30名 RAC 5名 計 135名） | 3. 1 | ファイヤ・サイド・ミーティング（於鶴家 テーマ：I・G・F報告と次年度構想について） |
| 10. 6 | クラブフォーラム（職業奉仕委員会） | 3. 8 | 西駅地区再開発の方向と課題（鹿大法文学部教授 松本 稔殿） |
| 10. 13 | G. S. E | 3. 15 | 私の健康法（県自然食品研究所理事長荒田 静殿） |
| 10. 20 | ファイヤ・サイド・ミーティング（於鶴鳴館 テーマ：会員増強について） | 3. 22 | ○ロータリー賞贈呈式（受賞団体 宇宿町内会連絡協議会, 市青果仲卸組合青年部）
○県立図書館に本年度青少年文庫本贈呈 |
| 10. 27 | 米山月間に因んで（地区米山奨学委員管 健志殿） | 3. 29 | 8ミリ映画「開からの響」サン・プランニングセンター代表 小山義允殿 |
| 11. 10 | ロータリー財団月間に因んで（ロータリー財団委員長 牧田健二会員） | 4. 5 | ロータリー雑誌月間に因んで（春苑堂書店社長 野添紀之殿） |
| 11. 17 | 職場訪問（鹿児島電報電話局） | 4. 12 | 日常生活と体力作り（県体育指導員協議会会長 稲田敏文殿） |
| 11. 24 | 県政の展望（県知事 鎌田要人殿） | 4. 19 | クラブフォーラム（社会奉仕委員会） |
| 21. 1 | クラブ協議会（11月26, 27日大分市で開催の地区大会出席報告） | 4. 26 | 洒肴雑話（作家 五代夏夫殿） |
| 12. 8 | 西鹿児島駅改良計画（鹿児島鉄道管理局長 神谷 牧夫殿） | 5. 10 | 敬天愛人について（平岡禎吉会員） |
| 12. 15 | 年次総会（理事・役員選出） | 5. 17 | 教育を考える（前県教育長 井之口恒 |

雄殿)

- 5.24 モダンヤングライフスタイル (鮫島志芽太会員)
5.31○医学における放射線利用 (川平建次郎会員)
○職業分類について (野村昭五郎会員)

- 6.7 天皇陛下をお迎えして (黎明館長 新納教義殿)
6.14 ファイヤ・サイド・ミーティング (放鶴家 テーマ:今年度の反省)
6.21 美術雑観 (市美術館長 四蔵典夫殿)
6.28 クラブ協議会 (活動報告)

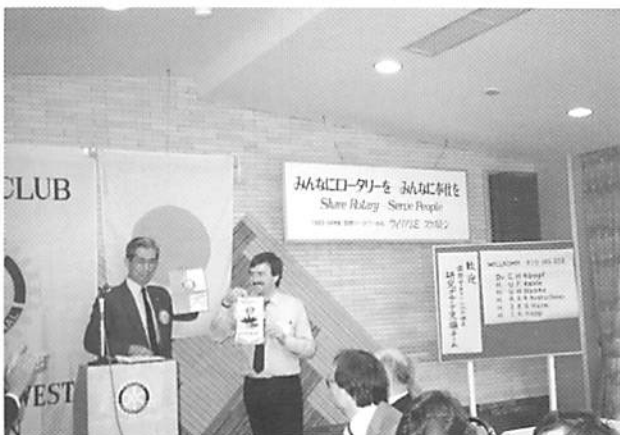


丸田美徳ガバナりの公式訪問

83
84年度
インター
シティ
フォーラム



国際
交換
チーム
を迎
えて
の
例
会



第 22 年 (1984~85)

昭和59年7月~60年6月

〈R I 会長ターゲット〉

見つけよう

奉仕の新生面



会 長
池 田 広



幹 事
柿 市 高 重

R I 会長 カルロス・カンセコ (メキシコ)
ガバナー 田 中 千 尋 (鹿屋西)
分区代理 田 頭 重 治 (出 水)

役員・理事

会 長	池 田 広 (理事)	幹 事	柿 市 高 重
副会長	福 田 正 臣 (理事)	副幹事	土 橋 滋
理 事	福 満 武 雄	会 計	小 園 正 人
々	前 田 隆 造	S A A	佐久間 佳 久
々	玉 川 哲 生	副SAA	中 尾 正 昭
々	上 原 満		

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎福田 正臣	○中村 善治			
会員増強	◎中村 一雄	○桜美 義明	高橋 司	岡山 唯一	
会員選考	◎岩元 紀彦	○川村 洋	藤安 辰造		
職業分類	◎中村 俊雄	○川田 恵一	内山 光男		
出席	◎吉留 益	○外西 寿彦	新福 栄熊	高井 敏治	
親睦	◎徳沢 紀生	○浜田 馨	谷口 良康	海老原利則	久保田彦穂
	野村昭五郎	中尾 洋	渡辺 忠		
ロータリー情報	◎島津 忠丸	○川畑 正美	安田 正治	久保 政次	
会報雑誌	◎岩元 基	○石神 兼康	河井 時義	水渕 清治	
プログラム	◎村田 和雄	○田原迫卓視	江夏 洋	小山 幸義	徳田 基
広報	◎三角桂次郎	○平岡 禎吉	福田 敏之	崎元 行範	
職業奉仕	◎福満 武雄	○田平 礼章	太原 春雄	池口 恵観	
社会奉仕	◎前田 隆造	○林 其為	牧田 健二	木治屋克己	光吉 正昭
青少年奉仕	◎上原 満	○新川 靖博	永松 実夫	中川 宏	井手泰次郎
インターアクト	◎岩田 泰一	○海江田 卓	原口 哲夫	佐伯 寿郎	鯨島志芽太
ローターアクト	◎徳永新一郎	○川平健次郎	本武 勝美	森永 茂樹	
国際奉仕	◎玉川 哲夫	○山下 皓三	川上鐵太郎	岩男 秀彦	

剛団・米山奨学 ◎古木 圭介 ○前田 好文 宇治野純章
 ローターリー賞 ◎福田 正臣 ○前田 隆造 福満 武雄 村田 和雄 三角桂次郎
 岩元 基
 273地区青少年奉仕インターアクト委員 海江田 卓

主 な 出 来 事

- | | | | | |
|-------|---|-------|-------|--|
| 7.5 | クラブ協議会（6月17日鹿屋市で開催の地区協議会出席報告） | 計59名） | 11.29 | クラブフォーラム（ロータリー財団委員会） |
| 7.12 | ファイヤ・サイド・ミーティング（テーマ：委員会活動計画） | | 12.6 | 放射線治療について（川平建次郎会員） |
| 7.19 | クラブ協議会（委員会活動方針及び計画発表） | | 12.13 | ○年次総会（次期理事・役員選出）
○8ミリ映画「ザ・島」（サンフランシスコセンター代表小山義允殿） |
| 7.26 | クラブ協議会（決算報告・予算審議20周年記念大会会計報告） | | 12.20 | 男の世界（焼酎天国 浜園幸子殿） |
| 8.2 | 海外研修を終えて（永松実夫会員） | | 12.27 | 新人会員卓話（原口哲夫会員） |
| 8.9 | お盆を迎えて（池口恵観会員） | | 1.5 | 市内RC新春合同例会（サンロイヤルホテル） |
| 8.16 | ことばの履歴書（海江田卓会員） | | 1.17 | クラブ協議会（上期報告・下期計画発表） |
| 8.23 | 健康をたかめるには（牧田健二会員） | | 1.24 | 歴史の教訓（中島実殿） |
| 8.30 | 脳卒中について（河井時義会員） | | 1.31 | 東条元首相の辞世（平井政明殿） |
| 9.6 | 心臓と血管の話（福田正臣会員） | | 2.7 | 治安事情あれこれ（県警察本部長 小林憲司殿） |
| 9.13 | 医療あれこれ（太原春雄会員） | | 2.14 | 最近の犯罪情勢とその問題点（鹿児島地方検察庁検事正 親崎定雄殿） |
| 9.20 | 観月家族会（於城山観光ホテル・参加者 会員52名 家族39名 留学生42名 RAC9名 計142名） | | 2.21 | 鹿児島島の裁判所について（鹿児島地方裁判所長 永井登志彦殿） |
| 9.27 | クラブフォーラム（青少年奉仕委員会） | | 2.28 | クラブフォーラム（国際奉仕委員会） |
| 10.4 | 米山月間にちなんで | | 3.7 | 本県の血液事情について（県赤十字血液センター部長 田上香穂殿） |
| 10.11 | クラブ協議会（ガバナー公式訪問にそなえて） | | 3.14 | クラブフォーラム（社会奉仕委員会）
参陸会（百合幸） |
| 10.18 | ガバナー公式訪問 | | 3.28 | ロータリー賞贈呈式（受賞者：岩下政廣殿、山下良一殿）県立図書館へ第3回日の青少年文庫贈呈 |
| 10.25 | クラブフォーラム（職業奉仕委員会） | | 4.4 | 競争体制によるニューメディアの展開
（野村昭五郎会員） |
| 11.1 | 他人を知る（鹿児島大学教育学部教授 久留一郎殿） | | 4.11 | 労務管理の展望（森永茂樹会員） |
| 11.8 | B・C級戦犯に思う（東京目黒B・C 漆崎義雄殿） | | 4.18 | 高齢化社会と年金法の改正について
（柴垣洋之会員） |
| 11.13 | 中村俊雄会員逝去されました。享年76才 | | | |
| 11.15 | 職場訪問（南日本放送） | | | |
| 11.22 | 参陸会（国際親善の夕べ、高井敏治会員「草の庵」出版記念祝賀会、参加者、会員37名、IAC5名、留学生17名 | | | |

- 4 . 25 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
- 5 . 2 退職雑感 (前甲南高校校長 亀之園重隆殿)
- 5 . 9 鶴岡 R C、鹿児島西 R C 兄弟盟約 20 周年記念例会 (記念卓話 鯨島志芽太会員) 桂修学院離宮 (建築設計師協会九州支部長 大隅弥次郎殿)
- 5 . 16 鹿児島県窯業界の現況について (県工業試験場窯業部長 蘭田徳幸殿)
- 5 . 23 鹿児島県の次期総合計画について (県企画部長 横田捷宏殿)
- 5 . 30 おじさま、お気をつけあそばせ (ピックアップ編集長 保ゆかり殿)
- 6 . 6 クラブ協議会 (5月11・12日宮崎市で開催の地区協議会出席報告)
- 6 . 13 参睦会 (P・S・M 鶴屋)
- 6 . 20 クラブ協議会 (フリートーキング)
- 6 . 27 クラブ協議会



田中千尋ガバナー公式訪問



合同新年会



観月家族会

第 23 年 (1985~86)

昭和60年7月~61年6月

〈R I 会長ターゲット〉

あなたが鍵です



会 長
福 田 正 臣



幹 事
山 下 皓 三

R I 会長 エドワード・F・カドマン
ガバナー 外 山 三 郎 (宮崎北)
分区代理 島 田 鐵 夫 (川 内)

役員・理事

会 長	福 田 正 臣 (理事)	幹 事	山 下 皓 三
副会長	中 村 善 治 (々)	副幹事	中 尾 洋
理 事	川 田 恵 一	会 計	高 橋 司
々	岩 田 泰 一	S A A	上 原 満
々	永 松 実 夫	副 S A A	佐 伯 寿 郎
々	小 山 幸 義	副 S A A	桜 美 義 明

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎中村 善治	○小園 正人	土橋 滋	河井 時義	海老原利則
会員増強	◎光吉 正昭	○木治屋克己	水淵 清治	吉留 益	
会員選考	◎高井 敏治	○新福 栄熊	久保 政次		
職業分類	◎岡山 唯一	○藤安 辰造	本田 雄郎	福田 敏之	徳田 基
出 席	◎本武 勝美	○谷口 良康	岩男 秀彦	外西 寿彦	森永 茂樹
親 睦	◎林 其為	○野村昭五郎	鮫嶋 宗隆	大迫 守弘	
	豊田 泰司	中村 一雄	鮫島志芽太	徳沢 紀生	
ロータリー情報	◎川畑 正美	○安田 正治	川村 洋	岩元 紀彦	
会報雑誌	◎柿市 高重	○村田 和雄	浜田 馨	石神 兼康	古木 圭介
プログラム	◎川上鐵太郎	○江夏 洋	久保田彦穂	池口 恵観	前田 隆造
広 報	◎崎元 行範	○福満 武雄			
	森 道生				
職業奉仕	◎川田 恵一	○玉川 哲生	松田 忠臣	島津 忠丸	前田 好文
社会奉仕	◎永松 実夫	○中尾 正昭	太原 春雄	宮江 正幸	三角桂次郎
青少年奉仕	◎岩田 泰一	○徳永新一郎	井手泰次郎	岩元 基	柴垣 洋之
インターアクト	◎原口 哲夫	○海江田 卓	内山 光男	佐々木 明	
ローターアクト	◎前田樹一郎	○川平建次郎	中川 宏	国生 貞志	松本 敏春
	伊集院康熙				

国際奉仕 ◎小山 幸義 ○田平 礼章 平岡 禎吉 池田 広
 R財団・米山奨学 ◎宇治野純章 ○下脇 二則 川原迫卓視
 ローターリー賞贈 ◎中村 善治 ○永松 実夫 川田 恵一 川上鐵太郎 崎元 行範
 柿市 高重

●273地区青少年奉仕インターアクト委員 海江田 卓

主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 7. 4 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 彰 | |
| 7. 11 | クラブ協議会 (活動方針及び計画・決算報告・予算審議) | 11. 14 | 世界の飢餓に愛の手を (特命飢餓大使 ラリー・ワード博士) |
| 7. 18 | クラブ協議会 (F・S・M テーマ: 委員会活動におけるR・I会長のテーマについて) | 11. 21 | ニューヨークとインドと (高井敏治会員) |
| 7. 25 | クラブ協議会 (ガバナー公式訪問にそなえて) | 11. 28 | 出席について (川畑正美会員) |
| 8. 1 | ガバナー公式訪問 | 12. 5 | 焼酎よもやま話 (鹿児島小売酒販連合会専務理事 池田静一殿) |
| 8. 8 | 焼酎ブームの背景を控る (福岡武雄会員) | 12. 6 | 牧田健二元会員ご逝去。享年74才 |
| 8. 13 | 中国人と日本人の人生観 (平岡禎吉会員) | 12. 12 | 年次総会 (次期理事・役員選出) |
| 8. 22 | 栄養と闘争心 (太原春雄会員) | 12. 19 | 島津斉彬史に学ぶ (鯉島志芽太会員) |
| 8. 29 | ぶどう王 長沢鼎について (県立短期大学教授 門田 明殿) | 12. 26 | 税金あれこれ (鹿児島税務署長 永吉哲男殿) |
| 9. 5 | 航空運輸について (森 道生会員) | 1. 8 | 市内R・C新春合同例会 (サンロイヤルホテル) |
| 9. 12 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 1. 16 | クラブ協議会 (上期報告と下期計画) |
| 9. 19 | 最近の倒産について (大迫守弘会員) | 1. 23 | CAPRICORN IWASAKI RESORTの概容について (岡山唯一会員) |
| 9. 26 | 観月家族会 (参加者、会員64名、家族37名、留学生等25名、RAC 8名、計134名、ホテル鶴鳴館にて) | 1. 30 | ロータリーの綱領についての私見 (池田広会員) |
| 10. 3 | クラブフォーラム (職業奉仕委員会) | 2. 6 | 健康チェック・生活チェック (健康塾 塾長 赤星士郎殿) |
| 10. 15 | 福田正臣会長、鯉島志芽太会員は、鶴岡市で行なわれた鹿児島市と鶴岡市の兄弟盟約15周年記念式典に参加 | 2. 13 | クラブフォーラム (国際奉仕委員会) |
| 10. 17 | クラブ協議会 (第273地区年次大会報告) | 2. 20 | 外国人と日本人の風習の違い (古木圭介会員) |
| 10. 24 | 米山月間について (下脇二則会員、田原迫卓視会員) | 2. 22 | 本武勝美会員急逝されました。享年51才。 |
| 10. 31 | 労働基準行政の動きについて (鹿児島労働基準局長 藤倉 哲殿) | 2. 27 | 慈悲と愛について (池口恵観会員) |
| 11. 7 | 職場訪問 (磯庭園) 優良従業員2名表 | 3. 6 | 中国雑話 (福田敏之会員) |
| | | 3. 8 | 参陸会 (テーマ: 外国人留学生と働く青少年の交流参加者。会員19名、鹿大留学生24名、RAC 6名 計49名) |

- 3 . 13 クラブフォーラム (社会奉仕委員会)
- 3 . 20○ロータリー賞贈呈式。受賞者 濱島佐兵衛殿, 上塘ナミ殿, 是枝勇雄殿
○西ロータリー青少年文庫贈呈式
- 3 . 27 最近の日米貿易問題 (本田雄郎会員)
- 4 . 3 精薄施設の現状と将来について (水流洋会員)
- 4 . 10 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
- 4 . 17 分区代理として感じたこと (R I 第273地区 北部分区代理 島田鐵夫殿)
- 4 . 24 石仏あれこれ (川村洋会員)
- 5 . 1 クラブ協議会 (4.26国分市で開催の地区協議会出席報告)
- 5 . 8 さつま狂句雑感 (南日狂壇選者 古藤雪尾殿)
- 5 . 15 素人手品実演 (福元光行殿)
- 5 . 22 数学漫談 (新福栄能会員)
- 5 . 29 私のバードウォッチング (三反田藤男会員)
- 6 . 5 日本人をもう一度考える (南日本放送 株専務取締役 桐原 久殿)
- 6 . 12 漫画言語 (日本漫画家協会 坂井貞夫殿)
- 6 . 19 クラブ協議会 (次年度活動方針及び計画発表)
- 6 . 26 クラブ協議会 (活動報告)



記念公演“娘・妻・母” 女優 高峰秀子 女史



卓話・ゲスト
ドクターラリー・ワード “世界の飢饉に愛の手を”



第273地区大会 宮崎サンホテルフェニックスで

第 24 年 (1986~87)

昭和61年7月~62年6月

《R I 会長ターゲット》

ロータリーは

希望をもたらす



会 長
中 村 善 治



幹 事
中 尾 洋

R I 会長 M. A. T. カパラス (フィリピン)
ガバナー 岩澤 光 男 (加治木)
分区代理 福田 敏 之 (鹿児島西)

役員・理事

会 長	中 村 善 治	幹 事	中 尾 洋
副会長	小 園 正 人	副幹事	桜 美 義 明 治
理 事	玉 川 哲 生	会 計	高 井 敏 治
〃	川 上 鐵 太 郎	S A A	佐 伯 寿 郎
〃	徳 永 新 一 郎	副SAA	谷 口 良 康 洋
〃	田 平 礼 章	〃	江 夏 洋

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎小園 正人 ○徳澤 紀生	柿市 高重	外西 寿彦	松田 忠臣
	安田 正治 中村 一雄	太原 春雄		
会員選考	◎柿市 高重 ○久保 政次	浜田 馨	岩元 紀彦	三角桂次郎
	海老原利則 徳田 基	森永 茂樹		
出 席	◎徳澤 紀生 ○川平建次郎	藤安 辰造	岡山 唯一	林 其為
親 睦	◎松田 忠臣 ○村田 和雄	木治屋克己	内山 光男	三反田藤男
	伊集院康熙 重信 景吉	佐藤 康典	野添 良隆	小山 幸義
ロータリー情報	◎安田 正治 ○前田 隆造	池田 広	上原 満	
会報・雑誌	◎中村 一雄 ○福満 武雄	崎元行範	水流 洋	新福 栄熊
プログラム	◎外西 寿彦 ○森 道生	川畑 正美	平岡 禎吉	久保田彦穂
	鮫島志芽太			
広 報	◎太原 春雄 ○福田 正臣	吉留 益	石神 兼康	石津 克之
	岩男 秀彦			
職業奉仕	◎玉川 哲生 ○宇治野純章	古木 圭介	久野 洋一	川村 洋
	高橋 司			
社会奉仕	◎川上鐵太郎 ○鮫嶋 宗隆	岩田 泰一	岩元 基	前田 好文
青少年奉仕	◎徳永新一郎 ○前田樹一郎	海江田 卓	水淵 清治	本田 雄郎

インターアクト	◎中川 宏	○光吉 正昭	大迫 守弘	井手泰次郎
ローターアクト	◎原口 哲夫	○土橋 滋	中尾 正昭	下脇 二則 柴山 一清
国際奉仕	◎田平 礼章	○山下 皓三	永松 実夫	川田 恵一
R財団・米山奨学	◎田原迫卓視	○河井 時義	福田 敏之	池口 恵観
ロータリー賞贈	◎小園 正人	○川上鐵太郎	玉川 哲生	徳永新一郎 田平 礼章

外西 寿彦

●第273地区 鹿児島北部地区代理 福田 敏之・青少年奉仕インターアクト委員 海江田 卓

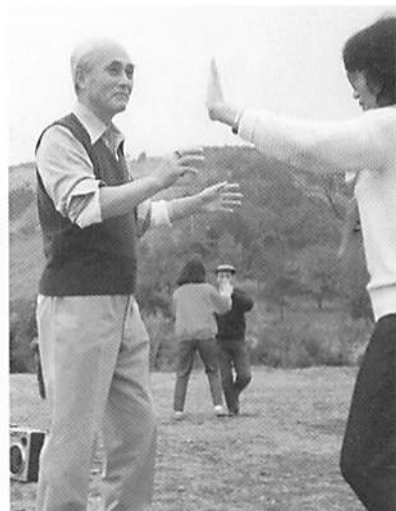
主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|--|--------|------------------------------------|
| 7. 3 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | 10. 23 | 職場訪問 (鹿児島市医師会病院) |
| 7. 10 | ガバナー公式訪問、分区代理も出席クラブ協議会 | 10. 30 | クラブ協議会 (10.25～26の地区大会～林田温泉の概要報告) |
| 7. 17 | レコード音楽こぼれ話 (海江田卓会員) | 11. 6 | チャレンジによる経営 (石津克之会員) |
| 7. 24 | クラブ協議会 (F・S・M) テーマ: 西RCで新しくアデイショナルクラブを結成するにあたって | 11. 13 | クラブフォーラム (ロータリー財団委員会) |
| 7. 31 | すこやかな中高年期のために (鹿大病院栄養士室主任 立川俱子殿) | 11. 20 | 海外旅行あれこれパート1 (古木圭介会員) |
| 8. 7 | 健康と運動 (鹿女子短大教授 日高良広殿) | 11. 27 | 心の健康について (鹿大教育学部教授 久留一郎殿) |
| 8. 12 | お盆の由来 (池口恵観会員) | 12. 4 | 歳末助け合い運動について (NHK鹿児島放送局放送部長 海野 功殿) |
| 8. 21 | ガン検診フルコース (松田忠臣会員) | 12. 11 | 年次総会 (次期理事・役員選出) |
| 8. 28 | 蜂はほんとうに刺すか (鹿女子短大助教授 幾留秀一殿) | 12. 18 | 女が花になる時 (榎清友代表取締役宮之原清子殿) |
| 9. 4 | 献血の現状 (赤十字血液センター渉外課長 牧園澄徳殿) | 12. 25 | 最近の政局 (南日本新聞社友・鹿短大講師 黒葛原 謙殿) |
| 9. 11 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 1. 7 | 市内RC新春合同列会 (サンロイヤルホテル) |
| 9. 18 | 観月家族会 (RC・RAC合同、ホテル鶴鳴館で) 会員62名、家族38名、留学生等34名、RAC 8名、計 142名参加 | 1. 22 | クラブ協議会 (上期報告と下期計画) |
| 9. 25 | 献血 (社会奉仕委員会) 51名参加 | 1. 29 | 高齢者の健康 (鹿児島大学学長 井形昭弘殿) |
| 9. 26 | 西RCゴルフコンペ (南国CC) | 2. 5 | 再び地方の時代を思う (南日本新聞専務取締役 日高 旺殿) |
| 10. 2 | 国民助け合い共同募金運動について (県共同募金会理事 宮脇 公殿) | 2. 12 | クラブ・フォーラム (国際奉仕委員会) |
| 10. 9 | クラブフォーラム (職業奉仕委員会) 看護についての苦勞話 (市立病院看護婦長 石躰陽子殿) | 2. 19 | 緑の羽根運動について (県緑化推進委員会事務局長 清水精一郎殿) |
| 10. 16 | スチュワーデス雑感 (全日空チーフスチュワーデス 木下卓子殿) | 2. 26 | 満洲残留孤児について (徳田 基会員) |
| | | 3. 5 | 私の健康法 (前田好文会員) |
| | | 3. 12 | クラブフォーラム (社会奉仕委員会) |
| | | 3. 19 | 21回ロータリー賞贈呈式グループ“風” |

- 代表幸かほる殿，精神薄弱者・児童施設の入園者に対する美容の奉仕
- 3 . 26 エイズについて（赤十字血液センター製剤課課長 新原正明殿）
- 4 . 2 市役所40年（前市勤労婦人センター所長 坂根庸子殿）
- 4 . 9 クラブフォーラム（F・S・M）
- 4 . 16 献血（社会奉仕委員会）31名参加
- 4 . 23 最近の経済情勢雑感（今西祐次郎会員）
- 5 . 7 クラブ協議会（4月25日，26日小林市で開催の地区協議会報告）
- 5 . 14 古代史に見る薩摩のエネルギー（鹿児島女子短大教授 中村明蔵殿）
- 5 . 21 勸進帳（株ドレスアップ伊東 社長 奈良迫ミチ殿）
- 5 . 28 クラブ協議会（次年度委員会）
- 6 . 4 ピカソについて（鹿児島市立美術館館長 四蔵典夫殿）
- 6 . 11 薩摩焼雑話（元県工業試験場長 野元堅一郎殿）
- 6 . 18 クラブ協議会
- 6 . 25 クラブ協議会（活動報告）



西・城西RCと合同の矢岳ハイキング（61.11.2）



ハイキングでダンス会



吉松町でわらび狩（62.4.19）

第 25 年 (1987~88)

昭和62年7月~63年6月

《R I会長ターゲット》

奉仕に結束

——平和に献身



会 長
小 園 正 人



幹 事
桜 美 義 明

R I 会長 チャールズ・C・ケラー
ガバナー 池田 卓 郎 (小林)
分区代理 古 田 光 (川内)

役員・理事

会 長	小 園 正 人	幹 事	桜 美 義 明
副会長	外 西 寿 彦	副幹事	岩 元 基
理 事	石 神 兼 康	会 計	久 保 政 次
々	崎 元 行 範	S A A	谷 口 良 康
々	前 田 樹 一 郎	副SAA	大 迫 守 弘
々	江 夏 洋	々	伊 集 院 康 熙

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎外西 寿彦	○三角桂次郎	池田 広	山下 皓三	内山 光男
	前田 隆造	福満 武雄	中尾 正昭		
会員選考	◎池田 広	○福田 敏之	土橋 滋	徳田 基	川村 洋
	松田 忠臣	林 其為	太原 春雄		
出席	◎山下 皓三	○徳永新一郎	川畑 正美	中村 一雄	白石 哲三
親睦	◎内山 光男	○岩田 泰一	池口 恵観	玉川 哲生	海江田 卓
	井手泰次郎	森 道生	猪俣 幸雄	田中 寛吉	竹下 威
	山元 政明	高山 義則	眞部 均		
ロータリー情報	◎前田 隆造	○上原 満	水淵 清治	田平 礼章	
会報雑誌	◎福満 武雄	○岩男 秀彦	前田 好文	徳澤 紀生	今西祐次郎
プログラム	◎三角桂次郎	○小山 幸義	中村 善治	佐伯 寿郎	宇治野純章
	永松 実夫				
広 報	◎中尾 正昭	○柿市 高重	岡山 唯一	浜田 馨	海老原利則
職業奉仕	◎石神 兼康	○森永 茂樹	河井 時義	光吉 正昭	木治屋克己
	岩元 紀彦				
社会奉仕	◎崎元 行範	○下脇 二則	安田 正治	平岡 禎吉	新福 栄熊
	白濱 英美				

青少年奉仕	◎前田樹一郎	○原口 哲夫	福田 正臣	水流 洋	古木 圭介
インターアクト	◎柴山 一清	○村田 和雄	中尾 洋	佐藤 康典	田中 勝利
ローターアクト	◎中川 宏	○三反田藤男	石津 克之	久野 洋一	野添 良隆
国際奉仕	◎江夏 洋	○川平建次郎	川上鐵太郎	久保田彦穂	寺脇 保
R財団・米山奨学	◎川田 恵一	○高井 敏治	吉留 益	鮫島志芽太	
ロータリー賞推薦	◎外西 寿彦	○崎元 行範	石神 兼康	前田樹一郎	江夏 洋

三角桂次郎

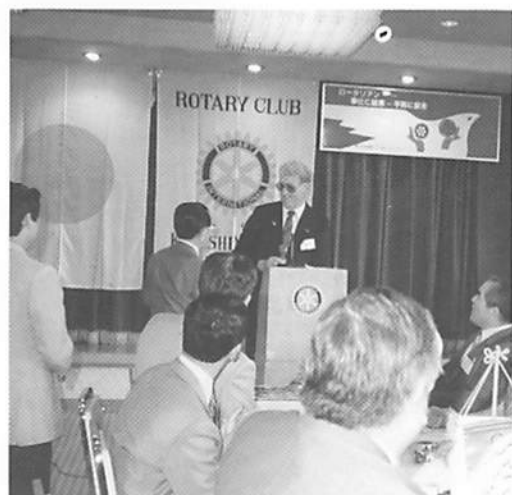
●273地区青少年奉仕 インターアクト地区委員長 海江田 卓

●273地区青少年奉仕 ローターアクト地区副委員長 徳 永 新一郎

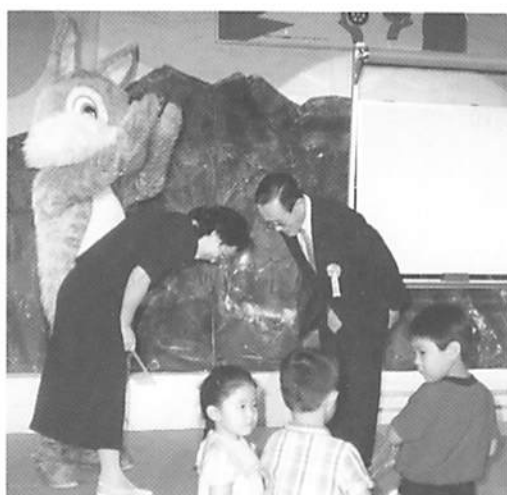
主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 7. 2 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 11. 19 | 株式市況と今後の予想 (佐藤唐典会員) |
| 7. 9 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | 11. 26 | 私の闘病譚 (小山幸義会員) |
| 7. 16 | 焼酎のうまさと技能 (山元政明会員) | 12. 3 | 薩摩切子の復元について (薩摩ガラス
工芸(株)専務取締役 新村和憲殿) |
| 7. 23 | ファイヤー・サイド・ミーティング | 12. 10 | 年次総会 (理事・役員選出) |
| 7. 30 | 国際火山会議について (鹿児島国際火
山会議事務局長 元井達郎殿) | 12. 17 | 今後の日本の医療 (高山義則会員) |
| 8. 6 | ロータリー回顧見聞思考感 (県北部分
区代理 古田 光君) | 12. 4 | クラブ協議会 (各委員会別協議) |
| 8. 13 | 孟蘭盆と先祖供養 (池口恵観会員) | 12. 27 | 第8代会長久保田彦穂殿にはご逝去さ
れました。(享年82才) |
| 8. 20 | 鹿児島市制百周年記念事業等について
(鹿児島市企画部長 永松 勲殿) | 1. 9 | 市内RC新春合同例会 (サンロイヤル
ホテル) |
| 8. 27 | 黒船逆転騒動 (鮫島志芽太会員) | 1. 14 | 鹿児島西・城西RC合同新年会 (於鶴
家) |
| 9. 3 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 1. 21 | クラブ協議会 (上期報告と下期計画) |
| 9. 10 | クラブ協議会 (ガバナー公式訪問にそ
なえて) | 1. 28 | 共産国私見 (高井敏治会員) |
| 9. 17 | 観月家族会 (於東急イン 参加者、会
員69名、家族等89名、計 158名) | 2. 4 | 都市活性化の提言 (鹿児島市議会議長
川路益己殿) |
| 9. 24 | 池田ガバナー公式訪問 | 2. 18 | クラブフォーラム (国際奉仕委員会) |
| 10. 1 | 人間とは何か (寺脇 保会員) | 2. 25 | クラブ協議会 (2月7日県青少年会館
で開催のIGF出席報告) |
| 10. 8 | クラブフォーラム (職業奉仕委員会) | 3. 3 | ファイヤー・サイド・ミーティング、分
科会テーマ①クラブの活性化を図るに
は ②会員増強について ③青少年育
成について ④ポリオ・プラス募金活
動について |
| 10. 12 | 第20代会長久保政次殿ご逝去されまし
た。(享年62才) | 3. 10 | クラブフォーラム (社会奉仕委員会) |
| 10. 15 | 参陸会 (19時から) | 3. 7 | 参陸会 (賀寿者祝賀会) |
| 10. 22 | 職場訪問 (セイカ食品(株)郡元工場) | 3. 24 | ○ロータリー賞贈呈式 (受賞者①警察医
病院長 福崎三彦殿, ②新聞少年 森 |
| 10. 29 | クラブ協議会 (10月24・25日小林市で
開催された地区大会出席報告) | | |
| 11. 5 | 超能力と労務管理 (森永重樹会員) | | |
| 11. 12 | クラブフォーラム (ロータリー財団委
員会) | | |

- 達也殿，大迫秀幸殿，池田勝利殿)
 ○県立図書館に青少年文庫追加分贈呈
- 3 . 31 知っている便利なドライバーの為の車の情報 (日本自動車連盟県支部 長野義人殿)
 - 4 . 7 刑事裁判と日本人 (鹿児島地方裁判所 判事 須藤 繁殿)
 - 4 . 14 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
 - 4 . 16 鹿児島市農協会館で地区協議会開催
 - 4 . 21 クラブ協議会 (地区協議会報告)
 - 4 . 28 LPガスについて (田中寛吉会員)
さわやかに遺言を (竹下威会員)
 - 5 . 12 私とジョギング (木村鎮夫会員)
 - 5 . 12 献血 (参加者32名) (社会奉仕委員会)
 - 5 . 19 分区代理体験の教訓 (県北部分区代理 古田 光会員)
 - 5 . 26 クラブ協議会 (次期委員会別協議)
 - 6 . 2 商工会議所ビル着工までのいきさつ (鹿児島商工会議所事務局長 磯長純二殿)
 - 6 . 9 ファイヤー・サイド・ミーティング、
(テーマ：一年を振り返って—4つの各分科会毎に反省)
 - 6 . 16 クラブ協議会 (現委員会別協議)
 - 6 . 23 海軍体験談 (元海軍中佐中村虎彦殿)
 - 6 . 30 クラブ協議会 (活動報告)



サンタローザ友好協会からウイム団長ら来鹿 (62.8.6)



62年度の観月家族会 (62.9.17)



西・城西ロータリーの合同新年会

第 26 年 (1988~89)

昭和63年7月~平成元年6月



会 長
外 西 寿 彦

〈R I 会長ターゲット〉

ロータリーに活力を

——あなたの活力を



幹 事
岩 元 基

R I 会長 ロイス・アビー

ガバナー 岡村 俊一 (鹿児島)

分区代理 新屋敷 保 (出水)

役員・理事

会 長 外 西 寿 彦
副会長 三 角 桂次郎
理 事 森 永 茂 樹
 〃 下 脇 二 則
 〃 中 川 宏
 〃 川 平 建次郎

幹 事 岩 元 基
副幹事 古 木 圭 介
会 計 岡 山 唯 一
S A A 伊集院 康 熙
副SAA 佐 藤 康 典
 〃 須 田 正 己

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎三角桂次郎	○川田 恵一	太原 春雄	徳永新一郎	玉川 哲生
	上原 満	永松 実夫	海江田 卓	岩田 泰一	
会員選考	◎太原 春雄	○土橋 滋	林 其為	川村 洋	徳田 基
	徳澤 紀生	中尾 正昭	前田 隆造		
出 席	◎徳永新一郎	○佐伯 寿郎	岩元 紀彦	石神 兼康	崎元 行範
親 睦	◎玉川 哲生	○前田樹一郎	江夏 洋	白石 哲三	白濱 英美
	樋渡 吉彦	橋本 一義	木村 鎮夫	榎田 浩典	岩崎 瑛
ロータリー情報	◎上原 満	○水渕 清治	田平 禮章	川上鐵太郎	中村 善治
会報・雑誌	◎永松 実夫	○中尾 洋	平岡 禎吉	吉留 益	
プログラム	◎海江田 卓	○岩男 秀彦	川田 恵一	木治屋克己	福田 正臣
	山下 皓三	山元 政明			
広 報	◎岩田 泰一	○安田 正治	池田 広	内山 光男	竹下 威
	新福 栄熊				
職業奉仕	◎森永 茂樹	○谷口 良康	河井 時義	福田 敏之	鮫島志芽太
	海老原利則				
社会奉仕	◎下脇 二則	○水流 洋	浜田 馨	小園 正人	川畑 正美
	福満 武雄				

青少年奉仕	◎中川 宏	○松田 忠臣	池口 恵観	猪俣 幸雄	今西祐次郎
インターアクト	◎野添 良隆	○久野 洋一	中村 一雄	真部 均	田中 寛吉
ローターアクト	◎三反田藤男	○柴山 一清	高山 義則	竹下 洋	
国際奉仕	◎川平建次郎	○大迫 守弘	柿市 高重	村田 和雄	前田 好文
ロータリー財団	◎高井 敏治	○光吉 正昭	小山 幸義	桜美 義明	
ポリオ・プラス	◎川田 恵一	○川平建次郎	大迫 守弘	高井 敏治	光吉 正昭
	下脇 二則	水流 洋			
ロータリー賞贈	◎三角桂次郎	○下脇 二則	森永 茂樹	中川 宏	川平建次郎
	川田 恵一				

- R I 第273地区インターアクト委員長 海江田 卓
- R I 第273地区ローターアクト委員 徳 永 新一郎

主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------------------|--|
| 7. 7 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 海外協力隊 県OB会会長 弓場秋信殿) | |
| 7. 14 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | | |
| 7. 21 | 新聞, 裏おもて (白濱英美会員) | 12. 8 | 西駅南部地区再開発計画の概要について (同地区再開発推進協議会事務局長 孝 幸二殿) |
| 7. 28 | ファイヤー・サイド・ミーティング (鶴鳴館) | 12. 15 | 年次総会, 次期役員を選出。会長三角, 副会長川田, 幹事古木 |
| 8. 4 | 人に好かれる話し方 (MBC学園講師 小沢聖子殿) | 12. 22 | クラブ協議会 (各委員会別協議) |
| 8. 11 | 自衛隊の現状について (鹿屋第一航空隊司令官海将補 猪狩 真殿) | 12. 29 | 仕事を通して得たこと (前田樹一郎会員) |
| 8. 18 | 長沢鼎とサンタローザ (鹿児島県立短期大学教授 門田 明殿) | 1. 6 | 市内ロータリークラブ新春合同例会 |
| 8. 25 | 歌会始めについて (歌人 鶴田正義殿) | 1. 12 | クラブ協議会 (上期報告・下期計画) |
| 9. 1 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 1. 19 | 消滅する薩摩藩の産業遺蹟 (元鹿児島県工業試験場長 黒川達爾雄殿) |
| 9. 8 | クラブ協議会 (公式訪問にそなえて) | 1. 26 | ネバネバの話 (鹿児島大学農学部教授 永浜伴紀殿) |
| 9. 22 | 観月家族会 (鶴鳴館) 会員62名, 家族51名, RAC19名参加 | 2. 2 | クラブフォーラム (国際奉仕委員会) |
| 10. 6 | 岡村ガバナー公式訪問, クラブ協議会 | 2. 7 | 鹿児島西・城西RC合同例会 (東急イン) |
| 10. 13 | 職場訪問例会 (旭相互銀行本店) | 2. 23 | 女の中に男が一人 (住吉三滋会員) |
| 10. 20 | 今後の鹿児島市の展望 (鹿児島市長 赤崎義則殿) | 3. 2日 | 男にとって“装い”とは (榎田浩典会員) |
| 10. 27 | 赤ちゃんの誕生 (伊集院康熙会員) | 3. 9 | クラブフォーラム (社会奉仕委員会) |
| 11. 10 | クラブフォーラム (ロータリー財団委員会) | 3. 16 | 企業の合併と税金 (鹿児島税務署副署長 三浦元二郎殿) |
| 11. 17 | 渚と人間を語る (福田正臣会員) | 3. 23 | ロータリー賞贈呈式, 市の児童通学保護員 (四元矢二・磯崎愛樹・川井田敬 |
| 11. 24 | クラブ協議会 (地区大会報告) 献血実施 (23名) | | |
| 12. 1 | 青年海外協力隊の活動について (青年 | | |

- 二・上吹越三雄の各氏)へ、青少年文庫用として県立図書館へ10万円、友愛文庫用として、中之島・御所浦・伊関・牟礼岡・天城の5小学校に図書贈呈
- 3.30 フローラルデザインとは (フラワーデザイナー 武田昌子殿)
- 4.6 地価公示について (川田恵一会員)
- 4.13 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
- 4.20 会計雑感 (中村一雄会員)
- 4.22 兄弟クラブ鶴岡ロータリークラブ30周年記念式に鮫島志芽太, 中村善治, 同夫人, 中尾 洋, 岩元 基, 玉川哲生, 岩田泰一の7人が参加出席した。
- 4.27 コンピューターよもやま話 (南日本コンピューター学院専門学校長 田中正男殿)
- 4.28 西RCとサンライズRCとの姉妹盟約)

- をサンタローザ市でめでたく締結, 西RCからは外西寿彦会長, 同夫人, 三角桂次郎, 同夫人, 小園正人, 同夫人, 同令嬢, 岩元基, 同夫人, 木治屋克己古木圭介, 三反田藤男の12名が参加
- 5.11 サンタローザ訪問報告
- 5.18 派閥の争い (高井敏治会員)
- 5.25 クラブ協議会 (次期委員会別協議)
- 6.1 子供に童話を (鹿児島童話会会長 高城芳男殿)
- 6.8 大島紬と女 (藤絹織物工業(株)製作部 藤かをり殿)
- 6.15 クラブ協議会 (現委員会別協議)
- 6.22 クラブ協議会 (地区協議会報告)
- 6.29 クラブ協議会 (活動報告)
- 毎月第2水曜日午後6時30分から学習会を実施した。



鶴岡RC 30周年記念式での
鮫島会員の講話



西RCとサンライズRCとの調印式
(外西会長とロバート・ダン会長)



調印式に参加した鹿児島西RCメンバー (長沢像の前で)

第 27 年 (1989~90)

平成元年7月~2年6月

《R I 会長ターゲット》

ロータリーを楽しもう



会 長
三 角 桂次郎



幹 事
古 木 圭 介

R I 会長 ヒューM・アーチャー (米国)
ガバナー 岩 下 哲 夫 (宮崎北)
分区代理 濱 田 幸 治 (鹿児島西南)

役員・理事

会 長	三 角 桂次郎	幹 事	古 木 圭 介
副会長	川 田 恵 一	副幹事	内 山 光 男
理 事	谷 口 良 康	S A A	須 田 正 己
々	水 流 洋	副SAA	榎 田 浩 典
々	松 田 忠 臣	々	吉 留 益
々	大 迫 守 弘	会 計	小 山 幸 義

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎川田 恵一	○木治屋克己	土橋 滋	佐伯 寿郎	前田樹一郎
	水瀨 清治	中尾 洋	岩男 秀彦	安田 正治	
会員選考	◎土橋 滋	○林 其為	外西 寿彦	平岡 禎吉	徳永新一郎
	岩田 泰一				
出 席	◎佐伯 寿郎	○桜美 義明	川村 洋	浜田 馨	太原 春雄
	玉川 哲生	福満 武雄			
親 睦	◎前田樹一郎	○中川 宏	山下 和磨	田平 礼章	上原 満
	江夏 洋	竹下 洋	黒木 幸一	大野 稜	佐藤 康典
	橋本 一義	吉澤 忠雄	宮脇真一郎		
ロータリー情報	◎水瀨 清治	○海江田 卓	永松 実夫	川上鐵太郎	柿市 高重
	村田 和雄				
会報・雑誌	◎中尾 洋	○白石 哲三	池田 広	岡山 唯一	伊集院康熙
プログラム	◎岩男 秀彦	○山元 政明	福田 敏之	高井 敏治	川平建次郎
広 報	◎安田 正治	○福田 正臣	鮫島志芽太	新福 栄熊	下脇 二則
職業奉仕	◎谷口 良康	○白濱 英美	徳澤 紀生	前田 隆造	田中 寛吉
社会奉仕	◎水流 洋	○高山 義則	海老原利則	野添 良隆	
青少年奉仕	◎松田 忠臣	○山下 皓三	中尾 正昭	真部 均	木村 鎮夫

インターアクト	◎久野 洋一	○住吉 三滋	崎元 行範	猪俣 幸雄	岩崎 瑛
ローターアクト	◎柴山 一清	○竹下 威	中村 一雄	樋渡 吉彦	石神 兼康
国際奉仕	◎大迫 守弘	○三反田藤男	中村 善治	小園 正人	森永 茂樹
ロータリー財団	◎光吉 正昭	○岩元 紀彦	岩元 基	徳田 基	池口 恵観
ポリオ・プラス	◎木治屋克己	○大迫 守弘	光吉 正昭	岩元 紀彦	水流 洋
	三反田藤男				
ロータリー賞贈	◎川田 忠一	○水流 洋	木治屋克己	大迫 守弘	松田 忠臣
	谷口 良康				

- R I 第273地区インターアクト委員長 海江田 卓
- R I 第273地区ローターアクト委員 徳永 新一郎

主 な 出 来 事

- | | | |
|--------|---|--|
| 7 . 6 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 基会員) |
| 7 . 13 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | 10 . 12 腎移植について (鹿児島市立病院外科部長 土持 昭男殿) |
| 7 . 20 | 人間四分割 (岩男秀彦会員) | |
| 7 . 27 | 日本の歌演奏 (海によせる6曲, 椰子の実等) ピアノ 有馬志享さん
バリトン独唱 住吉三滋会員 | 10 . 19 職場訪問 (鹿児島市立病院)
10 . 26 クラブ協議会 (宮崎市で開かれた1989~90年度国際ロータリー第273地区、地区大会報告) |
| 8 . 3 | ボクシング情勢 (須田正己会員)
煮干について (竹下 洋会員) | 11 . 2 クラブ協議会 (ガバナー公式訪問にそなえて) |
| 8 . 10 | 参観会 (於・鶴家, サンタローザからの交換学生, 教師等が参加)
お盆に因んで・読経 (池口恵観会員) | 11 . 9 クラブフォーラム (R I 財団委員会) |
| 8 . 17 | 薩摩義士の遺徳 (薩摩義士顕彰会)
副会長 岩重 俊明殿 | 11 . 16○第273地区 岩下哲夫ガバナー, 鹿児島市内分区代理, 公式訪問
○投票により新例会場は, 1月11日から山形屋と決定。 |
| 8 . 24 | アナウンサー雑話
KTSアナウンサー 青木 隆子殿 | 11 . 30 シンポジウム協議会 (委員会組織別協議) |
| 8 . 31 | ファイヤー・サイド・ミーティング
(於・鶴鳴館) テーマ①会員増強・国際交流について ②ロータリーと楽しもう ③開催予定シンポジウムについて | 12 . 7 すたれゆく技能 (山元政明会員)
12 . 14 年次総会 (次期役員・理事選出)
12 . 21 クリスマス家族会 (鶴鳴館)
12 . 28○クラブ協議会 (委員会別協議) |
| 9 . 7 | 「人と自然と音楽と」 池田 博幸殿
「フルート演奏」フルート 池田 博幸殿
ピアノ 太良木むつみさん | ○西RC事務所を金生町山形屋内に本日移転
○1月から例会は毎週水曜日山形屋7階社交室にて実施 |
| 9 . 14 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | |
| 9 . 21 | 百歳長寿よもやま話 (福田正臣会員) | 1 . 5 市内RC新春合同例会 (サンロイヤルホテル) |
| 9 . 28 | 更生保護事業「理解と支援を」鹿児島保護観察所長 中桐明弘殿 | 1 . 17 鹿児島西RC・鹿児島城西RCの新春合同例会 (東急イン) |
| 10 . 5 | ロータリーとキリスト教精神 (徳田 | |

- | | | | |
|--------|--|--------|-------------------------------------|
| 1 . 24 | クラブ協議会 (上期報告・下期計画) | 4 . 18 | 鹿児島県の町づくり (その課題)
鹿児島市建設局長 吉武 和臣殿 |
| 1 . 31 | いま・生命保険 (白石哲三会員) | 4 . 25 | 教育と響育と今日生 (前市民文化ホール館長 木脇 栄殿) |
| 2 . 7 | 蝶雑学 (野添良隆会員) | 5 . 9 | 明治維新の精神を継承発展させるための対案方策 (時任 一雄殿) |
| 2 . 14 | クラブフォーラム (国際奉仕委員会) | 5 . 16 | 地区協議会報告 (各委員会) |
| 2 . 21 | 俳句あれこれ (河一同人現代俳句協会
中原 槐殿) | 5 . 23 | シルクの話 (宮脇真一郎会員) |
| 2 . 28 | IM報告会 | 5 . 30 | クラブ協議会 (次期各委員会別) |
| 3 . 7 | 参陸会 (グリーンホテル錦生館) | 6 . 6 | 人間を測るものさし (元県社会教育課長 詫摩 治一殿) |
| 3 . 14 | クラブフォーラム (社会奉仕委員会) | 6 . 13 | 参陸会 (鶴屋) |
| 3 . 28 | 第24回ロータリー賞贈呈式
谷山小・武中・鹿児島女子高のボラン
ティア活動グループに贈呈 | 6 . 20 | 交通信号の話 (神野 昭会員) |
| 4 . 4 | 耳鼻咽喉のこわい話 (黒木幸一会員) | 6 . 27 | クラブ協議会 (活動報告一委員会別) |
| 4 . 11 | クラブフォーラム (会報雑誌委員会) | | |



新入会員の紹介



参陸会の風景



宮崎市での273地区大会

第 28 年 (1990~91)

平成 2 年 7 月 ~ 3 年 6 月

〈R I 会長ターゲット〉

ロータリーを高めよ
一思いを尽くし 熱意を尽くし



会 長
川 田 恵 一



幹 事
内 山 光 男

R I 会長 パウロ V. C. コスタ
ガバナー 今 林 重 男 (指 宿)
分区代理 海江田 順三郎 (鹿兒島中央)

役員・理事

会 長	川 田 恵 一	幹 事	内 山 光 男
副会長	木治屋 克己	副幹事	上 原 満
理 事	白 濱 英 美	S A A	中 川 宏
々	高 山 義 則	副SAA	宮 脇 真一郎
々	山 下 皓 三	々	竹 下 洋
々	三反田 藤 男	会 計	小 園 正 人

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎木治屋克己	○太原 春雄	林 其為	桜美 義明	榎田 浩典
	海江田 卓	池田 広	山元 政明	福田 正臣	
会員選考	◎林 其為	○外西 寿彦	平岡 禎吉	岩田 泰二	前田樹一郎
	田平 礼章				
出 席	◎桜美 義明	○江夏 洋	徳田 基	村田 和雄	三角桂次郎
	森永 茂樹				
親 睦	◎榎田 浩典	○水流 洋	小山 幸義	徳永新一郎	中尾 洋
	佐伯 寿郎	山下 和磨	須田 正己	新川 靖博	千原 昭義
	片平 可也	長谷川 明	栗田 久聖		
ロータリー情報	◎海江田 卓	○柿市 高重	玉川 哲夫	安田 正治	大迫 守弘
会報・雑誌	◎池田 広	○松田 忠臣	光吉 正昭	崎元 行範	
プログラム	◎山元 政明	○土橋 滋	福田 敏之	池口 恵観	川村 洋
	吉澤 忠雄				
広 報	◎福田 正臣	○永松 実夫	川上鐵太郎	坂元 文俊	菊野 晉次
職業奉仕	◎白濱 英美	○田中 寛吉	岩男 秀彦	水淵 清治	中村 一雄
社会奉仕	◎高山 義則	○久野 洋一	中村 善治	前田 隆造	岡山 唯一
	太原 春雄				

青少年奉仕	◎山下 皓三	○柴山 一清	川平建次郎	中尾 正昭	尾崎 義明
インターアクト	◎住吉 三滋	○黒木 幸一	吉留 益	下脇 二則	小畑 忠夫
ローターアクト	◎竹下 威	○相良 正典	石神 兼康	谷口 良康	橋本 一義
国際奉仕	◎三反田藤男	○野添 良隆	古木 圭介	福満 武雄	佐藤 康典
ロータリー財団	◎岩元 紀彦	○岩元 基	高井 敏治	浜田 馨	徳澤 紀生
特別委員会 30周年準備委員会	◎川田 恵一	○小園 正人	川村 洋	福田 敏之	川上鐵太郎
	浜田 馨	高井 敏治	池田 広	福田 正臣	中村 善治
	外西 寿彦	三角桂次郎			
ポリオ・プラス	◎太原 春雄	○三反田藤男	岩元 紀彦	岩元 基	高山 義則
	野添 良隆				
ロータリー賞推薦	◎木治屋克己	○高山 義則	太原 春雄	三反田藤男	山下 皓三
	白濱 英美				

● R I 第273地区 インターアクト委員長 海江田 卓

● R I 第273地区 ローターアクト委員長 徳 永 新一郎

主 な 出 来 事

- | | | | |
|---------|-------------------------------------|---------|---|
| 7 . 4 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 員) | |
| 7 . 11 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | 11 . 14 | クラブフォーラム (ロータリー財団委員会) |
| 7 . 25 | 歴史雑感 (日本の体質と前途)
鮫島志芽太名譽会員 | 11 . 21 | 不況時における土地活用法の一例について (田崎一郎会員) |
| 8 . 1 | ポートランドの国際大会に出席して
(外西寿彦会員) | 11 . 28 | クラブ協議会 (11月10, 11日指宿市で開催の地区大会出席報告) |
| 8 . 8 | 8月に思い出すこと (千原昭義会員) | 12 . 5 | 無意識の体の反応 (鹿大医学部助教授野添新一殿) |
| 8 . 22 | インド放浪記 (日印友好協会柔道コーチ 三浦 守殿) | 12 . 12 | 年次総会 (次期役員選出)
出版物によるセールストーク (国際教育開発広報担当 川上隆児殿) |
| 8 . 29 | 文学の中のすてきな男性たち (相見雅子殿) | 12 . 19 | クリスマス家族会 (東急イン) |
| 9 . 5 | G S E 報告—スライド (南日本新聞文化部 竹田明代殿) | 12 . 26 | クラブ協議会 (委員会別協議) |
| 9 . 12 | 観月会 (参睦会) | 1 . 7 | 市内ロータリークラブ新春合同例会 |
| 9 . 19 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 1 . 16 | 外国人から見た日本人 (ザ・アメリカンスターセイブのオーナー バーバラ・植村殿) |
| 9 . 26 | 私の宝物ローターアクト (西ローターアクト会長 張 嵐君) | 1 . 23 | クラブ協議会 (上期報告と下期予定発表) |
| 10 . 3 | 職場訪問 (日本たばこ産業鹿児島工場) | 1 . 30 | リーダーのあり方について (鹿児島県商工会連合会専務理事 本田省吾殿) |
| 10 . 17 | クラブ協議会 (公式訪問をひかえて) | 2 . 6 | インフォーマルミイティング |
| 10 . 24 | 思い (鹿大付属病院看護部長 橋本綾子殿) | | |
| 10 . 31 | 今林ガバナーの公式訪問 | | |
| 11 . 7 | 趣味の話 (吉澤忠雄会員)
皮膚泌尿器科と私の歩み (片平可也会 | | |

- 2 . 13 クラブフォーラム (国際奉仕委員会)
- 2 . 20 1400回記念例会(創立のころの思い出)
小山幸義会員
- 2 . 27 クラブ協議会 (I・M報告)
- 3 . 6 生涯教育時代 (MBC学園社長 竹下
幸良殿)
- 3 . 13 クラブフォーラム (社会奉仕委員会)
- 3 . 20 脱税が招くもの (鹿児島税務署副署長
山本豊孝殿)
- 3 . 27○ロータリー賞贈呈式 (受賞者) —鹿児島
市生活学校連絡会 (代表者福留ミキ
殿) 上敷領幸子殿, 森澄子殿
○青少年文庫贈呈式 県立図書館に贈呈
- 4 . 10 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
- 4 . 17 奉仕の生活 (国際ソロブチミスト鹿児
島会長 岩崎泰代殿)
- 4 . 24 鹿児島県人と宮崎県人 (鹿児島民芸館
館長 川越政則殿)
- 5 . 8 国際化時代を迎えて鹿児島の農業に対
する提言 (山形屋産業間発株社長 有
馬孝秋殿)
- 5 . 15 クラブ協議会 (延岡での地区協議会の
報告)
- 5 . 22 クラブ協議会 (新年度委員会)
- 5 . 29 旅行のこぼれ話 (南九州エージェン
トサービスセンター所長 市原俊郎殿)
- 6 . 5 世界環境デーに因んで (鹿児島市立病
院副院長 上川路睦博殿)
- 6 . 12 クラブ協議会 (各委員会)
- 6 . 26 クラブ協議会 (活動報告)



鹿児島西ロータリークラブクリスマス家族会



植樹祭での記念植樹



早朝例会



90年度の観月会

第 29 年 (1991~92)

平成 3 年 7 月 ~ 4 年 6 月

〈R I 会長ターゲット〉

自分を越えた眼を



会 長
木治屋 克 己



幹 事
上 原 満

R I 会長 ラジェンドラ・K. サブー (インド)
ガバナー 井 上 日出男 (延岡東)
分区代理 佐々木 典 綱 (鹿児島南)

役員・理事

会 長	木治屋 克 己	幹 事	上 原 満
副会長	岩 元 紀 彦	副幹事	玉 川 哲 生
理 事	田 中 寛 吉	S A A	徳 永 新一郎
々	竹 下 威	副SAA	尾 崎 義 明
々	柴 山 一 清	々	若 園 博 一
々	野 添 良 隆	会 計	光 吉 正 昭

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎岩元 紀彦 ○小山 幸義	外西 寿彦 江夏 洋	竹下 洋
	柿市 高重 松田 忠臣	石神 兼康 中村 善治	
会員選考	◎外西 寿彦 ○前田樹一郎	池口 恵観 川村 洋	徳田 基
	内山 光男		
出 席	◎江夏 洋 ○山下 和磨	榎田 浩典 長谷川 明	栗田 久聖
	坂本 文俊		
親 睦	◎竹下 洋 ○川平建次郎	江口 清隆 原田 隼男	平井 潔孝
	菊野 晉次 松本 剛平	桜美 義明 三反田藤男	下脇 二則
	山下 皓三 津田 正宏	王 劉彬	
ロータリー情報	◎柿市 高重 ○永松 実夫	川上鐵太郎 森永 茂樹	大迫 守弘
	白濱 英美		
会報・雑誌	◎松田 忠臣 ○谷口 良康	林 其為 三角桂次郎	海江田 卓
プログラム	◎石神 兼康 ○中尾 洋	岩田 泰一 片平 可也	水淵 清治
	太原 春雄		
広 報	◎中村 善治 ○水流 洋	福田 敏之 佐伯 寿郎	
職業奉仕	◎田中 寛吉 ○久野 洋一	福田 正臣 浜田 馨	平岡 禎吉
	中尾 正昭 岡山 唯一		

社会奉仕	◎竹下 威 山田 晴彬	○村田 和雄	住吉 三滋	高井 敏治	中村 一雄
青少年奉仕	◎柴山 一清	○新川 靖博	池田 廣	山元 政明	福田 一郎
インターアクト	◎高山 義則	○古木 圭介	岩男 秀彦	宮脇真一郎	三井 賢二
ローターアクト	◎相良 正典	○須田 正己	黒木 幸一	中川 宏	田崎 一郎
国際奉仕	◎野添 良隆	○千原 昭義	川田 恵一	前田 隆造	徳澤 紀生
ロータリー財団	◎岩元 基	○小園 正人	崎元 行範	安田 正治	吉留 益
ロータリー賞推薦	◎岩元 紀彦	○竹下 威	野添 良隆	柴山 一清	田中 寛吉
● R I 第2730地区	インターアクト委員長	海江田 卓			

主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|--|----------|---|
| 7. 3 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 11. 6 | クラブフォーラム (ロータリー財団委員会) |
| 7. 10 | クラブ協議会 (決算報告・予算審議) | 11. 8~10 | 第2730地区年次大会 (於延岡市) |
| 7. 17 | インフォーマルミーティング (夜間例会は、4班に分かれ、R I 会長テーマをテーマとして討論を行なった。) | 11. 13 | エーゲ海一人旅 (岩男秀彦会員)
地球環境保全と心の保全講演会
テーマ「地球は今……そして未来を考える (一般公開)」(講師鹿短大教授 大野照好殿、池口恵観会員) |
| 7. 24 | サンタローザ交換学生一行12名を迎えでの参陸会 (インターアクト指導者、ローターアクト役員等も出席) | 11. 20 | クラブ協議会 (地区大会出席者報告) |
| 7. 31 | 1ヶ月を振り返って | 11. 27 | 健康診断では遅すぎる (健康熟熟長 赤星士郎殿) |
| 8. 7 | 自分を越えた眼を (平岡禎吉会員) | 12. 4 | アメリカとアメリカ人 (南日本新聞社 編集局長 大岡純也殿) |
| 8. 21 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 12. 11 | 年次総会 (理事・役員選出) |
| 8. 28 | 菩提樹の森を鹿児島につくろう (木場隆亮殿) | 12. 18 | クリスマス家族会 (於東急イン 出席者、会員65名、家族60名、留学生、両アクター等45名 計 170名) |
| 9. 4 | クラブ協議会(ガバナー公式訪問にそなえ) | 12. 25 | クラブ協議会 (委員会別協議) |
| 9. 11 | 通信にまつわる話 (松本剛平会員) | 1. 10 | 市内R C新春合同例会 (於サンロイヤルホテル) |
| 9. 18 | ガバナー公式訪問 | 1. 22 | クラブ協議会 (上期報告と下期計画発表) |
| 9. 25 | 参陸会 (観月会 於: 東急イン) | 1. 29 | フリートーキング |
| 10. 2 | クラブフォーラム (職業奉仕委員会) | 2. 5 | インフォーマルミーティング |
| 10. 5 | 鶴丸高、鹿児島高校のインターアクト30名と西R C会員13名との座談会
テーマ: 将来の進路を考える—職業選択について | 2. 12 | クラブフォーラム (国際奉仕委員会) |
| 10. 9 | 放射線科について (鹿大医学部放射線科教授 中篠政敬殿) | 2. 19 | 情報通信キャプテン (白濱英美会員) |
| 10. 16 | 川を考える (南日本放送報道部長 中村耕治殿) | 2. 26 | クラブ協議会 (2月2日の地区I・Mの報告) |
| 10. 23 | 脳死を考える (鹿児島大学学長 井形昭弘殿) | 3. 4 | 救急者の今昔物語 (坂元明雄会員) |
| 10. 30 | 職場訪問 (カクイわた基準寝具株) | | |

- 3 . 11 クラブフォーラム (社会奉仕委員会)
- 3 . 18 今日の世相について (鹿児島新報社論説委員長 堀之内蛟龍殿)
- 3 . 25 ロータリー賞贈呈式 (受賞者 県点訳、朗読友之会) , 県立図書館に青少年文庫本追加贈呈
- 4 . 1 心の健康と音楽 (日本コロムビア(株)企画製作部 滝澤由貴男殿)
- 4 . 8 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
- 4 . 15 次年度会長研修会報告 (岩元紀彦会員)
- 4 . 22 岐阜県における薩摩義士の顕彰 (薩摩義士顕彰会理事 嶋 賢 殿)
- 4 . 23 報道各社と市内RC広報委員長との懇談会 (於鹿児島商工会議所ビル)
- 4 . 28 サンタローザ市サンライズRC親善訪問、木治屋会長外12名同行
- 5 . 6 現代の若者の考えを通して (県青少年会館指導員 田中慶子殿)
- 5 . 13 クラブ協議会 (次期各委員会)
- 5 . 20 サンタローザ・サンライズRC訪問報告 (木治屋克己会長)
- 5 . 27 西クラブ創立の前後 (高井敏治会員)
- 6 . 3 フリートーキング
- 6 . 10 私の見た日本 (鹿児島大学大学院留学生 何 艶 殿)
- 6 . 17 参睦会 (於 鈴香苑)
- 6 . 24 クラブ協議会 (年間の活動報告)



1991~2 井上ガバナー公式訪問



1991年7月24日 サンライズRC
サンタローザ交換学生を迎える参睦会

第 30 年 (1992~93)

平成 4 年 7 月 ~ 5 年 6 月

〈R I 会長ターゲット〉

まことの幸福は

人助けから



会 長
岩 元 紀 彦



幹 事
玉 川 哲 生

R I 会長 クリフォード L. ダクターマン (米国)
ガバナー 本 坊 蔵 吉 (鹿児島)
分区代理 貴 島 清 文 (鹿児島)

役員・理事

会 長	岩 元 紀 彦	幹 事	玉 川 哲 生
副会長	岩 男 秀 彦	副幹事	佐 伯 寿 郎
理 事	山 元 政 明	S A A	三反田 藤 男
〃	村 田 和 雄	副SAA	江 口 清 隆
〃	川 平 建次郎	〃	牛 垣 徹
〃	千 原 昭 義	会 計	下 脇 二 則

委 員 会 (◎は委員長 ○副委員長)

クラブ奉仕	◎岩男 秀彦	○吉留 益	小山 幸義	川田 恵一	前田樹一郎
	三角桂次郎	永松 実夫	大迫 守弘	高井 敏治	山下 和磨
会員増強	◎前田樹一郎	○内山 光男	石神 兼康	川村 洋	光吉 正昭
会員選考	◎小山 幸義	○中尾 正昭	木治屋克己	小園 正人	徳澤 純生
職業分類	◎吉留 益	○水渕 清治	柿市 高重	崎元 行範	上原 満
出 席	◎山下 和磨	○高山 義則	林 其為	須田 正己	新川 靖博
親 睦	◎大迫 守弘	○松田 忠臣	有馬 戦男	福田 一郎	福地 眞
	川崎 洋	永田 征之	王 劉彬	尾崎 義則	小原 昭彦
	岡山 唯一	相良 正典	竹下 威	高橋 良明	
ロータリー情報	◎永松 実夫	○白濱 英美	森永 茂樹	野添 良隆	坂元 明雄
	田中 寛吉				
会報・雑誌	◎高井 敏治	○山下 皓三	菊野 晉次	中野 隆正	
プログラム	◎三角桂次郎	○桜美 義明	平岡 禎吉	池口 恵観	津田 正宏
広 報	◎川田 恵一	○海江田 卓	岩元 基	前田 隆造	
職業奉仕	◎山元 政明	○岩田 泰一	外西 寿彦	池田 廣	黒木 幸一
	江夏 洋				
社会奉仕	◎村田 和雄	○片平 可也	川上鐵太郎	徳田 基	竹下 洋

- | | | | | |
|-----------------|---------------|-------|-------|-------|
| ローターアクト | ◎田崎 一郎 ○山田 晴彬 | 平井 潔孝 | 中川 宏 | 住吉 三滋 |
| | 菅 富男 | | | |
| 青少年奉仕 | ◎川平建次郎 ○宮脇真一郎 | 石橋 恵二 | 谷口 良康 | |
| インターアクト | ◎古木 圭介 ○原田 隼男 | 榎田 浩典 | 染川 周郎 | 水流 洋 |
| 国際奉仕 | ◎千原 昭義 ○福田 正臣 | 中村 善治 | 柴山 一清 | 坂本 文俊 |
| ロータリー財団
米山奨学 | ◎安田 正治 ○浜田 馨 | 福田 敏之 | 中村 一雄 | 太原 春雄 |
| ロータリー賞推薦 | ◎岩男 秀彦 ○村田 和雄 | 千原 昭義 | 川平建次郎 | 山元 政明 |
- R I 第2730地区インターアクト委員長 海江田 卓
● R I 第2730地区ローターアクト委員 山下 皓三

主 な 出 来 事

- | | | | |
|--------|--|-------------|---|
| 7. 1 | クラブ協議会 (活動方針及び計画) | 催の地区大会出席報告) | |
| 7. 8 | 総会 (決算報告・予算審議) | 11. 18 | クラブ協議会 (ガバナー訪問準備) |
| 7. 15 | インフォーマルミーティング (R I 会長テーマについて討論) | 11. 25 | ガバナー公式訪問 |
| 7. 22 | 戊辰役の意義 (西郷南洲顕彰会常務理事 児玉正志殿) | 12. 2 | 老人の医学 (鹿児島大学学長 井形昭弘殿) |
| 7. 29 | ロシアあれこれ (内山光男会員) | 12. 9 | クリスマス家族会 (19時からサンロイヤルホテルで開催。アクター、留学生24名、会員59名、家族43名出席。) |
| 8. 5 | 労働分配率と労働時間短縮について (県経営者協会専務理事 岩月正昭殿) | 12. 16 | 年次総会 (次期理事・役員選任) |
| 8. 12 | お盆の話 (最福寺宗務長 宮坂有澄殿) | 1. 7 | 市内R C新春合同例会 (サンロイヤルホテル) |
| 8. 19 | クラブフォーラム (会員増強委員会) | 1. 13 | クラブ協議会 (上期報告・下期計画発表) |
| 9. 2 | 労働時間の現状と時短促進法 (鹿児島労働基準局長 中村健策殿) | 1. 20 | クラブフォーラム (ロータリー情報委員会) |
| 9. 9 | 参陸会 (観月会) (サンロイヤルホテル) | 1. 27 | 年頭所感 (永松実夫会員、福田一郎会員) |
| 9. 16 | クラブフォーラム (青少年奉仕委員会) | 2. 3 | インフォーマルミーティング |
| 9. 30 | わが国の貯蓄事情 (日本銀行鹿児島支店長 小池光一殿) | 2. 10 | 93年の経済と21世紀に向けての産業トレンド (大和証券(株)副社長 越田弘志殿) |
| 10. 7 | 企業における情報発信 (びっくあっぷ編集長 たもつゆかり殿) | 2. 17 | クラブフォーラム (30周年記念実行委員会) |
| 10. 14 | 南浜建築構想について (株)T A K A S A K I 物人研究所 高崎正治殿) | 2. 24 | クラブ協議会 (2. 7開催のI・M報告。テーマ(1)社会奉仕の決議23—34に関して、新声明についての問題点(2)ロータリー財団について (3)拡大・増強について) |
| 10. 21 | クラブフォーラム (職業奉仕委員会) | 3. 1 | 内山光男会員急逝されました。52才。 |
| 10. 28 | 職場訪問 (N T T鹿児島支店を訪問、優良従業員 武 正義殿を表彰) | 3. 3 | 老いを美しく (県社会福祉事業団理事 |
| 11. 4 | 日本とイギリス (日英協会事務局長 玉山和夫殿) | | |
| | ロータリーとその活動に関する報道機関・責任者へのアンケート結果の発表 | | |
| 11. 11 | クラブ協議会 (11月7、8日市内で開 | | |

坂根庸子殿)

- 3.10 ヨット世界一周の旅 (布垂乳根トレンディング 迫 正人殿)
- 3.17 クラブフォーラム (社会奉仕委員会)
- 3.24 創立30周年記念式典、祝賀会の開催
ロータリー賞贈呈 (永年訪問奉仕活動
を続けるグループ さわやか会に贈る)
県立図書館の青少年文庫へ図書を贈呈
- 3.31 トンネルよもやま話 (牛垣 徹会員)
- 4.7 クラブフォーラム (国際奉仕委員会)
- 4.14 外人の見た鹿児島島の印象 (さくら銀行

鹿児島支店長 津田正宏会員)

- 4.21 クラブフォーラム (会報雑誌委員会)
ノータンキに生きる私 (随筆かごしま
社代表 上蘭登志子殿)
- 4.28 英語は度胸 (鹿児島外語学院講師 島
田暁美殿)
- 5.12 クラブ協議会 (次期各委員会毎)
- 5.19 次年度会長研修会及びロータリー財団
セミナー報告
- 5.26 クラブ協議会 (宮崎市における地区協
議会報告)
- 6.2 鶴岡RC提供ビデオ「階は長にして」
(奥の細道・出羽三山紀行) 上映
- 6.16 日本の住宅事情 (永田征之会員)
- 6.23 参陸会 (於グリーンホテル錦生館)
- 6.30 クラブ協議会 (本年度活動報告)



92クリスマス家族会



参陸会での仲良し会員



華やかな女装会員

編集後記

20周年に引き続き30周年でも記念誌の編集を何時のまにか引き受ける羽目になってしまった。前回の時の後記に述べておいたのだが広報委員会あたりで10年がかりの計画を立てて毎年の記録、資料を整理してゆくべきだったとつくづく痛感しています。今回はとくに実行委員会をお願いして友人の原田俊之君(元県産業物産館々長)に事務局には入って手伝ってもらうことにした。お蔭で事務局にある資料についてはすっかり整理してもらった。しかしこういう記念誌に対する会員の関心は案外うすく、協力していただいたのは特定の方だけだったのは、こちらの体制づくりがまずかったせいだったと反省しているところです。

しかし、再度記念誌を編集して感じることは西ロータリークラブの30年の歴史はあだやおろそかなものではないということだ。初代の桜美四郎会長をはじめ、たくさんの素晴らしい会長、幹事、各委員長、委員の懸命の努力が積み重なっていることをしみじみと感じ入った次第です。

チャーターメンバーで残っている川村洋さん、小山幸義さんも随想に書いて居られるけれど、西ロータリーは県内一のクラブだとお互いに自慢して良いのではないかと思います。最後に記念誌編集に協力していただいた事務局の赤羽輝子さん、原田俊之君、アジア印刷それに会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

記念誌編集委員長 石神兼康記

創立 30 周年記念誌

平成 5 年 6 月印刷発行

発行者 鹿児島西ロータリークラブ

〒892 鹿児島市金生町3-1 山形屋内

印刷 有限会社 アジア印刷